

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年3月23日
【発行者名】	東京海上アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 後藤 俊夫
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号
【事務連絡者氏名】	尾崎 正幸
【電話番号】	03 - 3212 - 8421
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	東京海上・世界資産バランスファンド（年1回決算型）
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】	上限 1兆円
【縦覧に供する場所】	該当なし

第一部【証券情報】

(1)【ファンドの名称】

東京海上・世界資産バランスファンド（年1回決算型）

（なお、愛称として「円奏会ワールド（年1回決算型）」という名称を用いる場合があります。以下「当ファンド」ということがあります。）

(2)【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託の受益権です。

当ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定に基づく投資信託の受益権であり、受益権の帰属は、後述の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関及び当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社である東京海上アセットマネジメント株式会社（以下「委託会社」といいます。）は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

当初の1口当たり元本は1円です。

委託会社の依頼により、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

(3)【発行（売出）価額の総額】

1兆円を上限とします。

(4)【発行（売出）価格】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額

基準価額は、販売会社または委託会社に問い合わせることにより知ることができます。

委託会社のお問い合わせ先（以下「委託会社サービスデスク」といいます。）

東京海上アセットマネジメント サービスデスク

0120-712-016（土日祝日・年末年始を除く9時～17時）

(5)【申込手数料】

発行価格に1.65%（税抜1.5%）の率を乗じて得た額を上限として販売会社が個別に定める額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。申込手数料には、消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）が含まれます。

分配金再投資コース（下記「(6)申込単位」をご参照ください。）の収益分配金の再投資により取得する口数については、手数料はありません。

(6)【申込単位】

申込方法には、収益分配金の受取方法によって、以下の2種類のコースがあります。

分配金受取りコース	分配金を受け取るコースです。
分配金再投資コース	分配金が税引き後、自動的に無手数料で再投資されるコースです。

販売会社やお申込みのコース等によって申込単位は異なります。また、販売会社により取扱うコースが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。（販売会社との間で定額購入サービスに関する契約を締結した場合、当該契約で規定する取得申込単位によるものとします。）

分配金再投資コースにおける収益分配金の再投資に際しては、上記にかかわらず1口単位で取得することができます。

(7)【申込期間】

2020年3月24日から2020年9月23日まで

上記申込期間中の毎営業日にお申込みを受け付けます。ただし、お申込み日が以下の日のいずれかに該当する場合には、取得のお申込みの受付を行いません。

- ・ニューヨーク証券取引所の休業日
- ・ニューヨークの銀行の休業日
- ・ロンドン証券取引所の休業日
- ・ロンドンの銀行の休業日

申込期間は、上記期間満了前に委託会社が有価証券届出書を提出することにより更新されます。

(8)【申込取扱場所】

販売会社の本・支店等で取扱います。ただし、一部取扱いを行わない支店等がある場合がありますので、販売会社の最寄りの本・支店等にお問い合わせください。なお、販売会社については、委託会社サービスデスクにお問い合わせください。

(9)【払込期日】

取得申込者は、申込金（発行価格に取得申込口数を乗じて得た額に申込手数料を加算した申込時の支払総額をいいます。）を販売会社所定の期日までに販売会社に支払うものとします。

各取得申込日の発行価額の総額は各追加信託が行われる日に、販売会社から、委託会社の指定する口座を經由して、受託会社である三菱UFJ信託銀行株式会社（以下「受託会社」といいます。）の指定する当ファンドの口座に振込まれます。

(10)【払込取扱場所】

申込金は、お申込みの販売会社にお支払いください。

(11)【振替機関に関する事項】

当ファンドの受益権の振替機関は下記の通りです。

株式会社証券保管振替機構

(12)【その他】

申込の方法

- a. 受益権の取得申込は、販売会社において申込期間中の毎営業日に受け付けます。ただし、お申込み日が上記「(7)申込期間」に記載の申込不可日のいずれかに該当する場合には、取得のお申込みの受付を行いません。
- b. 取得申込者は、申込金額相当額の申込金を販売会社に支払うものとします。ただし、当ファンドは上記「(9)払込期日」にしたがい受託会社に払込まれた時点で初めて設定がなされ、取得申込者はその時点から当ファンドの当該設定にかかる受益者となります。申込金には利息を付けません。
- c. 取得申込の受付は、原則として午後3時までの受付分を当日分とし、この受付時間を過ぎてからの申込分は翌営業日の受付分とします。
- d. 上記にかかわらず、取引所（ ）における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情が発生し、委託会社が追加設定を制限する措置を取った場合には、販売会社は、受益権の取得申込の受付を中止すること、および既に受け付けた取得申込の受付を取り消すことができます。
（ ）金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます（以下、本書において同じ。）。
- e. 取得申込者は、販売会社に取引口座を開設のうえ、申込を行うものとします。（ただし、既に取引口座をお持ちの場合を除きます。）
- f. 分配金再投資コースの場合には、申込の際、取得申込者と販売会社の間で、自動けいぞく（累積）投資に関する契約を締結する必要があります。
上記の契約について、別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約等が用いられることがあります。この場合、当該別の名称に読替えるものとします（以下同じ。）。
- g. 定時定額購入サービスを選択した取得申込者は、販売会社との間で定時定額購入サービスに関する取り決めを行います。

日本以外の地域における発行

該当ありません。

振替受益権について

当ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、上記「(11)振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則にしたがって取り扱われるものとします。

ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および上記「(11)振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

当ファンドは、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして、「東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド（為替ヘッジあり）」、「TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド（為替ヘッジあり）」、「東京海上・世界REITマザーファンド（為替ヘッジあり）」（それぞれをまたは総称して、以下「マザーファンド」ということがあります。）受益証券を主要投資対象として運用を行います。

「TMA」とは委託会社である「東京海上アセットマネジメント株式会社（TOKIO MARINE ASSET MANAGEMENT CO.,LTD.）」の略称です。

基本的性格

当ファンドは、追加型投信/海外/資産複合に属します。

当ファンドの商品分類表および属性区分表は、以下の通りです。

商品分類表

単位型投信・追加型投信	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式
	海外	債券
追加型投信	内外	不動産投信
		その他資産 ()
		資産複合

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
--------	------	--------	------	-------

株式 一般 大型株 中小型株 債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 （ ） 不動産投信 その他資産（投資信託証券 （資産複合（株式・債券・ 不動産投信）資産配分変更 型）） 資産複合 （ ） 資産配分固定型 資産配分変更型	年1回	グローバル （日本を除く）		
	年2回	日本		
	年4回	北米	ファミリーファンド	
	年6回 （隔月）	欧州		あり （フルヘッジ）
	年12回 （毎月）	アジア		
	日々	オセアニア		
	その他 （ ）	中南米	ファンド・オブ・ ファンズ	なし
		アフリカ		
		中近東 （中東）		
		エマージング		

当ファンドが該当する商品分類・属性区分を網掛け表示しています。

投資形態が、ファミリーファンドまたはファンド・オブ・ファンズに該当する場合、投資信託証券を通じて投資することとなりますので、商品分類表と属性区分表の投資対象資産が異なります。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しています。

商品分類の定義

単位型・追加型	単位型投信	当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われのないファンドをいいます。
	追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	国内	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	海外	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	内外	目論見書または投資信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産	株式	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	債券	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	不動産投信（リート）	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

	その他資産	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式、債券および不動産投信以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	目論見書または投資信託約款において、株式、債券、不動産投信およびその他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
独立区分	MMF(マネー・マネージメント・ファンド)	一般社団法人投資信託協会の「MMF等の運営に関する規則」に定められるMMFをいいます。
	MRF(マネー・リザーブ・ファンド)	一般社団法人投資信託協会の「MMF等の運営に関する規則」に定められるMRFをいいます。
	ETF	投資信託及び投資法人に関する法律施行令(平成12年政令480号)第12条第1号及び第2号に規定する証券投資信託並びに租税特別措置法(昭和32年法律第26号)第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいいます。
補足分類	インデックス型	目論見書または投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいいます。
	特殊型	目論見書または投資信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

商品分類の定義は、一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」をもとに委託会社が作成しております。

属性区分の定義

投資対象資産	株式	一般	次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいいます。
		大型株	目論見書または投資信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
		中小型株	目論見書または投資信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
	債券	一般	次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいいます。
		公債	目論見書または投資信託約款において、日本国または各国の政府の発行する国債(地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含みます。以下同じ。)に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
		社債	目論見書または投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
		その他債券	目論見書または投資信託約款において、公債または社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
		格付等クレジットによる属性	目論見書または投資信託約款において、上記債券の「発行体」による区分のほか、特にクレジットに対して明確な記載があるものについては、上記債券に掲げる区分に加え「高格付債」「低格付債」等を併記します。
	不動産投信		目論見書または投資信託約款において、主として不動産投信に投資する旨の記載があるものをいいます。
	その他資産		目論見書または投資信託約款において、主として株式、債券および不動産投信以外に投資する旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	資産配分 固定型	目論見書または投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいいます。

		資産配分 変更型	目論見書または投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行う旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないものをいいます。
決算頻度	年1回		目論見書または投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年2回		目論見書または投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年4回		目論見書または投資信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年6回（隔月）		目論見書または投資信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年12回（毎月）		目論見書または投資信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。
	日々		目論見書または投資信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいいます。
	その他		上記属性にあてはまらない全てのものをいいます。
投資対象 地域	グローバル		目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	日本		目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	北米		目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	欧州		目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アジア		目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	オセアニア		目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中南米		目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アフリカ		目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中近東（中東）		目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	エマージング		目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資形態	ファミリーファンド		目論見書または投資信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するものをいいます。
	ファンド・オブ・ファンズ		一般社団法人投資信託協会の「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定されるファンド・オブ・ファンズをいいます。
為替 ヘッジ	あり		目論見書または投資信託約款において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいいます。

	なし	目論見書または投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。
対象インデックス	日経225	目論見書または投資信託約款において、日経225に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいいます。
	TOPIX	目論見書または投資信託約款において、TOPIXに連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいいます。
	その他	上記指数にあてはまらない全てのものをいいます。
特殊型	ブル・ベア型	目論見書または投資信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動若しくは逆連動(一定倍の連動若しくは逆連動を含む。)を目指す旨の記載があるものをいいます。
	条件付運用型	目論見書または投資信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果(基準価額、償還価額、収益分配金等)や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいいます。
	ロング・ショート型 /絶対収益追求型	目論見書または投資信託約款において、特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨若しくはロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨の記載があるものをいいます。
	その他型	目論見書または投資信託約款において、上記特殊型に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

属性区分の定義は、一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」をもとに委託会社が作成しております。

信託金の限度額

当ファンドの信託金限度額は、信託約款の定めにより1兆円となっています。ただし、受託会社と合意のうえ、変更することができます。

ファンドの特色

1

主として、マザーファンドへの投資を通じて、海外の複数の資産（債券、株式、REIT）に分散投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

資産	マザーファンド
海外債券	東京海上・外資建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)
海外株式	TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)
海外REIT	東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)

2

各資産への配分比率は、海外債券70%、海外株式15%、海外REIT15%を基本とします。

- 上記の資産配分比率を基本としますが、ファンドの基準価額の変動リスクが大きくなった場合には、基準価額の変動リスクを年率3%※程度に抑制することを目標として、海外株式と海外REITの資産配分比率をそれぞれ引き下げ、その引き下げた部分は短期金融資産等により運用します。(海外株式と海外REITの資産配分は、ほぼ同じ比率とします。)

※上記の数値は、ファンドのリスク水準の目標値であり、目標が達成されることを約束・保証するものではありません。また、ファンドのリターンを目標を意味するものではありません。基準価額の変動リスクを目標通りに抑えることができたかどうかにかかわらず、運用成績はマイナスとなることがあります。将来的に市場環境が大きく変動した場合には、事前にお知らせすることなく、目標リスクの水準(年率3%程度)を見直すことがあります。

ファンドの資産配分比率のイメージ



※配分比率調整は、海外株式と海外REITの資産配分比率がほぼ同じ比率となるように行います。

※組入資産の価格変動や市況の動向等によっては、各資産の実際組入比率は上記比率と異なる場合があります。

※上図は、実際のファンドの運用を示すものではありません。

次ページへ続く

資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

● 価格変動リスクとは

価格が下落した場合だけでなく、上昇した場合も含めた「値動きの振れ幅の程度」をいいます。リスクの大小を数値で表す場合、一般的には「標準偏差」を用います。標準偏差とは、価格の変化率（リターン）のばらつき度合いを示す指標です。標準偏差が小さいほど値動きが緩やかでリスクは小さく、標準偏差が大きいほど値動きは荒くリスクが大きいことを示します。

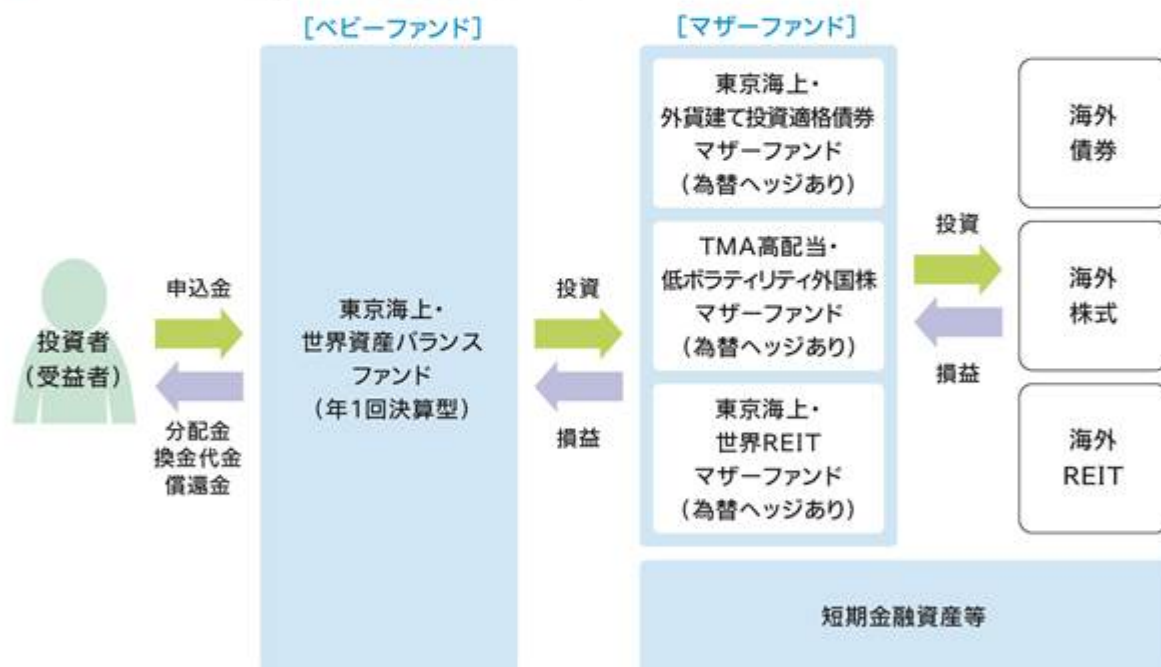
3

外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行うことにより、為替変動リスクの低減を図ります。

※為替ヘッジを行うことで、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
※一般的に、円金利がヘッジ対象通貨の金利よりも低い場合、これらの金利差相当分のヘッジコストが発生します。ただし、為替市場における需給の影響等によっては、金利差相当分以上のヘッジコストがかかる場合があります。

ファンドの仕組み

- ・ファミリーファンド方式により運用を行います。



※「東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)」において、海外債券および為替取引等の運用の指図に関する権限を「ウエスタン・アセット・マネジメント株式会社」に委託します。また、同社は、運用の指図権限の一部を「ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシー」および「ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッド」に再委託します。

※「ファミリーファンド方式」とは、受益者の投資資金をベビーファンドとしてまとめ、その資金を主としてマザーファンドに投資することにより、実質的な運用をマザーファンドにて行う方式です。ベビーファンドがマザーファンドに投資するに際しての投資コストはかかりません。また、他のベビーファンドが、マザーファンドへ投資することがあります。

次ページへ続く

資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

● 各マザーファンドの主な特色

東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)

- ◇海外の投資適格債券(先進国の国債・物価連動国債・社債および米ドル建ての新興国債等)に幅広く投資を行い、為替ヘッジ後の円ベースで信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。
- ◇投資する債券は、取得時においてBBB格相当以上の格付けを取得している債券、もしくはそれらと同等の信用力を有すると考えられる債券を投資対象とします。
- ◇運用にあたっては、金利リスクと信用リスクを分散することでポートフォリオ全体の価格変動リスクを抑えるとともに、為替ヘッジ後の円ベースでのリターンを勘案し、投資銘柄を決定します。
- ◇信託財産の効率的な運用に資するため、国債先物取引等の買建て等を行う場合があります。
- ◇外貨建資産については、原則として、為替ヘッジを行うことにより為替変動リスクの低減を図ります。
- ◇ウエスタン・アセット・マネジメント株式会社に、海外債券および為替取引等の運用指図に関する権限を委託します。また、同社は、運用の指図権限の一部をウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーおよびウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッドに再委託します。

ウエスタン・アセット(レグ・メイソン・インクの100%子会社)

設立:1971年、本社:米国カリフォルニア州

ウエスタン・アセット・マネジメント株式会社(ウエスタン・アセットの日本法人)

ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシー(ウエスタン・アセットの米国法人)

ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッド(ウエスタン・アセットの英国法人)

- ・ウエスタン・アセットは債券運用に特化した、世界有数の債券運用会社です。
- ・世界各地に運用拠点を展開しており、世界のお客様に対して、幅広い運用戦略に関する多様なサービスを提供しています。

TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)

- ◇外国の株式の中から、流動性や信用リスク等を勘案して選定した銘柄に投資します。
- ◇ポートフォリオ全体の配当利回りを高める戦略と、最小分散ポートフォリオによる低ボラティリティ戦略を組み合わせることで、ポートフォリオ全体のボラティリティをMSCIコクサイ指数(円ヘッジベース)のボラティリティより低く抑えつつ、中長期的にMSCIコクサイ指数(円ヘッジベース)と同程度のリターンをめざします。
- ◇原則として、株式への組入比率を高位に維持します。
- ◇外貨建資産については、原則として、為替ヘッジを行うことにより為替変動リスクの低減を図ります。

東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)

- ◇海外の上場REITに投資を行い、信託財産の中長期的な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。
- ◇運用にあたっては、流動性の高い銘柄群の中から信用格付けが高く価格変動リスクが相対的に低いと判断される銘柄を中心に選定しつつ、投資効率を重視したポートフォリオの構築を行います。
- ◇外貨建資産については、原則として、為替ヘッジを行うことにより為替変動リスクの低減を図ります。

次ページへ続く

資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

主な投資制限

株 式	株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。
外貨建資産	外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

分配方針

◎年1回決算を行います。

- 6月23日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として次の方針に基づき分配を行います。

分配対象額は、経費控除後の、繰越分を含めた配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

収益分配金額は、委託会社が基準価額の水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わないことがあります。

《イメージ図》

決算	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
分配												

- ①上図はイメージ図であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について、示唆・保証するものではありません。実際の分配金額は運用実績に応じて決定されます。

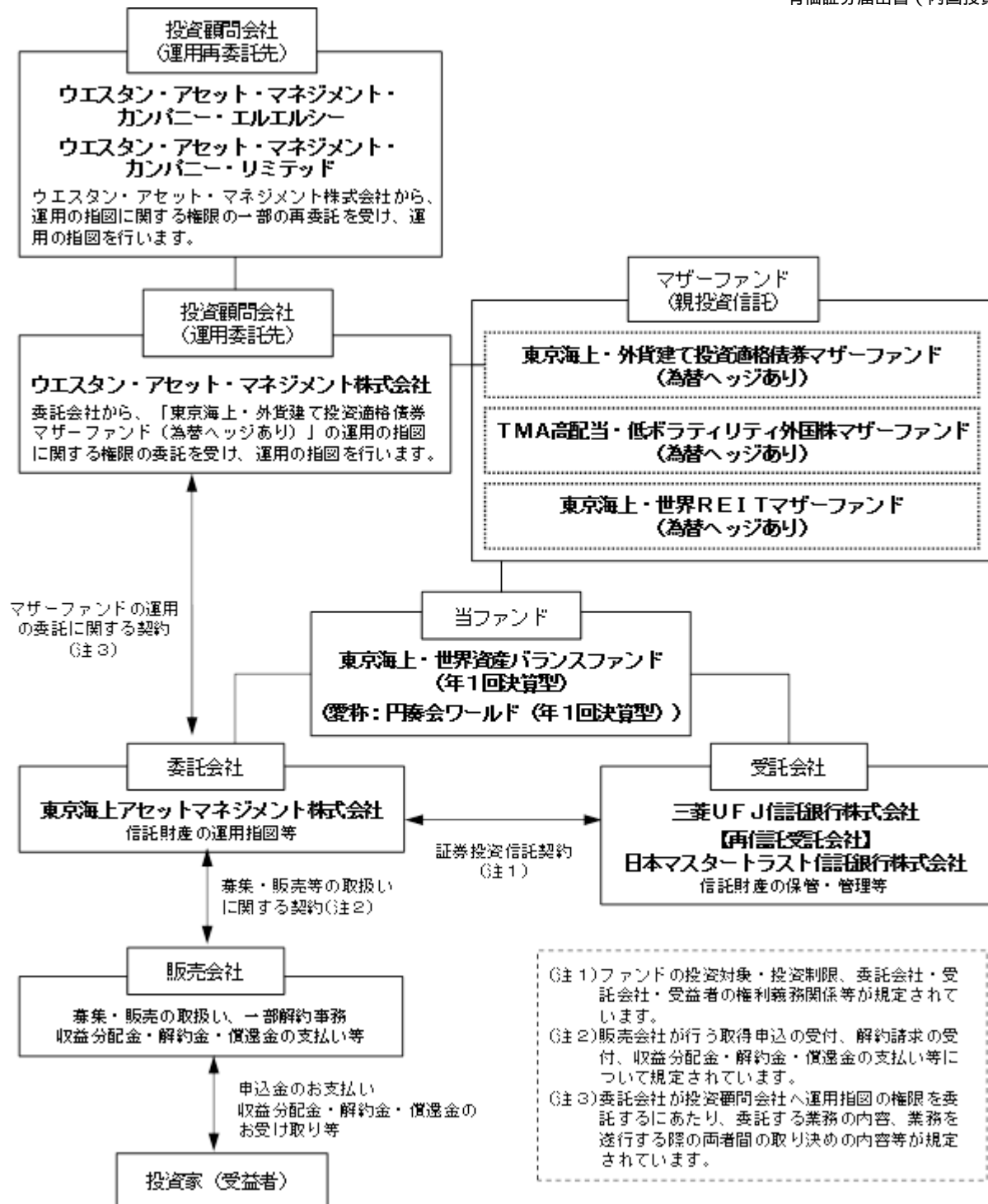
資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(2)【ファンドの沿革】

2017年7月12日 ファンドの設定、運用開始

(3)【ファンドの仕組み】

ファンドの仕組み



委託会社の概況

- ・名称 東京海上アセットマネジメント株式会社
- ・資本金の額 20億円（2019年12月末日現在）
- ・会社の沿革

- 1985年12月 東京海上グループ(現:東京海上日動グループ)等の出資により、資産運用ビジネスの戦略的位置付けで、東京海上エム・シー投資顧問株式会社の社名にて資本金2億円で設立
- 1987年2月 投資顧問業者として登録
同年6月 投資一任業務認可取得
- 1991年4月 国内および海外年金の運用受託を開始
- 1998年5月 東京海上アセットマネジメント投信株式会社に変更し、投資信託法上の委託会社としての免許取得
- 2007年9月 金融商品取引業者として登録
- 2014年4月 東京海上アセットマネジメント株式会社に変更
- 2016年10月 東京海上不動産投資顧問株式会社と合併

・大株主の状況(2019年12月末日現在)

株主名	住所	所有株数	所有比率
東京海上ホールディングス株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号	38,300株	100.0%

2【投資方針】

(1)【投資方針】

1. 基本方針

当ファンドは、主として以下のマザーファンド受益証券に投資を行い、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)受益証券

TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)受益証券

東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)受益証券

2. 運用方法

(1) 主要投資対象

主として各マザーファンド受益証券および短期金融資産に投資します。なお、有価証券等の資産に直接投資することがあります。

(2) 投資態度

主として、海外の債券・株式・不動産投資信託(一般社団法人投資信託協会規則に定める不動産投資信託証券をいいます。以下「REIT」といいます。)のそれぞれを主要投資対象として運用する各マザーファンド受益証券に投資します。

各マザーファンド受益証券への投資を通じて、海外の複数の資産(債券・株式・REIT)に分散投資します。

各資産への投資比率は、以下の資産配分比率を基本とします。

債券	東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)	70%
株式	TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)	15%
REIT	東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)	15%

上記の資産配分比率を基本としますが、基準価額の変動リスクを一定の水準に抑制することを目標として、株式とREITの資産配分比率をそれぞれ引き下げ、短期金融資産を組入れる場合があります。(株式とREITの資産配分は、ほぼ同じ比率とします。)

当ファンドの運用は、ファミリーファンド方式により行います。したがって、実質的な運用は、マザーファンドで行うこととなります。

東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)における海外債券および為替取引等については、ウエスタン・アセット・マネジメント株式会社に運用の指図に関する権限を委託します。また、同社は、運用の指図権限の一部をウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーおよびウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッドに再委託します。

実質組入外貨建資産については、原則として、各マザーファンドにおいて為替ヘッジを行うことにより為替変動リスクの低減を図ります。

資金動向、市況動向、残存期間等の事情によっては、上記のような運用ができない場合があります。

<参考情報>各マザーファンドの運用の基本方針、主な投資対象と投資制限(要約)

東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)

1. 基本方針

信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

2. 運用方法

(1) 主要投資対象

主として海外の投資適格債券に投資します。

(2) 投資態度

海外の投資適格債券(先進国の国債・物価連動国債・社債および米ドル建ての新興国債等)に幅広く投資を行い、為替ヘッジ後の円ベースで信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。

投資する債券は、取得時においてB B B格相当以上の格付けを取得している債券、もしくはそれらと同等の信用力を有すると考えられる債券を投資対象とします。

運用にあたっては、金利リスクと信用リスクを分散することでポートフォリオ全体の価格変動リスクを抑えるとともに、為替ヘッジ後の円ベースでのリターンを勘案し、投資銘柄を決定します。

信託財産の効率的な運用に資するため、国債先物取引等の買建て等を行う場合があります。

外貨建資産については、原則として、為替ヘッジを行うことにより為替変動リスクの低減を図ります。

ウエスタン・アセット・マネジメント株式会社に、海外債券および為替取引等の運用指図に関する権限を委託します。また、同社は、運用の指図権限の一部をウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーおよびウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッドに再委託します。

3. 運用制限

(1) 株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。(ただし、転換社債の転換、新株引受権の行使および新株予約権の行使により取得する場合に限りません。)

(2) 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

(3) 新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。

(4) 上場投資信託証券等を除く投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

(5) 同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

(6) 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

(7) 同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)

1. 基本方針

信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

2. 運用方法

(1) 投資対象

主として外国の株式に投資します。

(2) 投資態度

外国の株式の中から、流動性や信用リスク等を勘案して選定した銘柄に投資します。

ポートフォリオ全体の配当利回りを高める戦略と、最小分散ポートフォリオによる低ボラティリティ戦略を組み合わせることで、ポートフォリオ全体のボラティリティをMSCIコクサイ指数(円ヘッジベース)のボラティリティより低く抑えつつ、中長期的にMSCIコクサイ指数(円ヘッジベース)と同程度のリターンを目指します。

原則として、株式への組入比率を高位に維持します。

為替については、原則としてフルヘッジを行います。

3. 運用制限

(1) 株式への投資割合には、制限を設けません。

(2) 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

(3) 新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。

(4) 上場投資信託証券等を除く投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

(5) 同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

(6) 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

(7) 同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)

1. 基本方針
信託財産の中長期的な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。
2. 運用方法
 - (1) 投資対象
主として海外の金融商品取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている不動産投資信託証券(一般社団法人投資信託協会規則に定める不動産投資信託証券をいいます。以下「REIT」といいます。)に投資します。
 - (2) 投資態度
海外の上場REITに投資を行い、信託財産の中長期的な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。
運用にあたっては、流動性の高い銘柄群の中から信用格付けが高く価格変動リスクが相対的に低いと判断される銘柄を中心に選定しつつ、投資効率を重視したポートフォリオの構築を行います。
外貨建資産については、原則として、為替ヘッジを行うことにより為替変動リスクの低減を図ります。
3. 運用制限
 - (1) 株式への直接投資は行いません。
 - (2) 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
 - (3) 投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
 - (4) 同一発行体の投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の35%以下とします。

資金動向、市況動向、残存期間等の事情によっては、上記のような運用ができない場合があります。

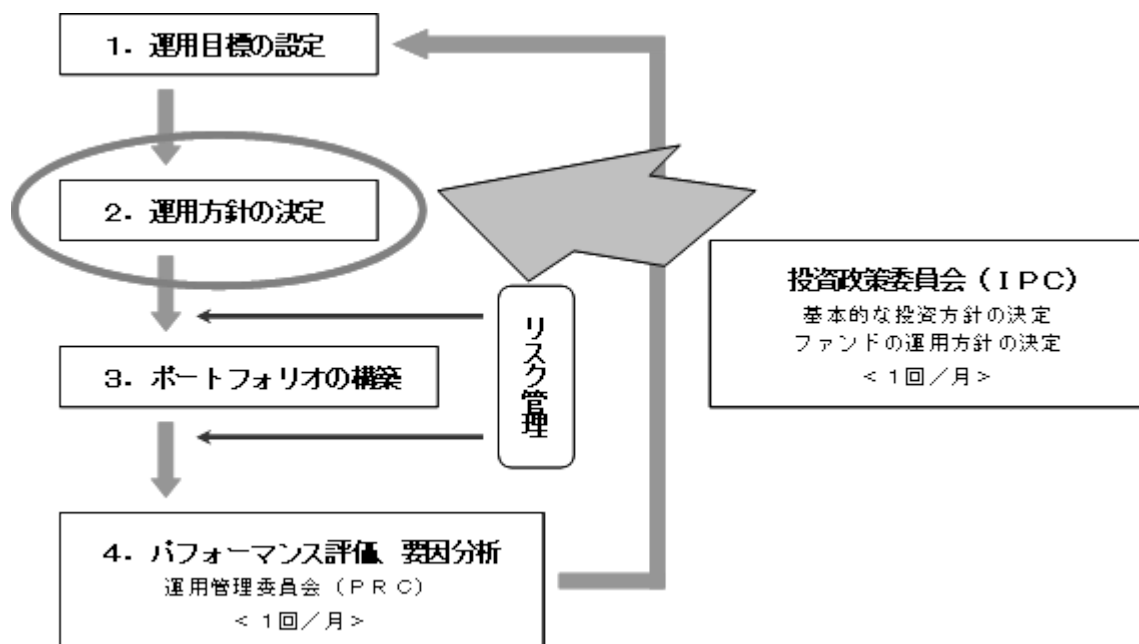
(2)【投資対象】

1. 当ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。
 - (1) 次に掲げる特定資産(投資信託及び投資法人に関する法律施行令第3条で定めるものをいいます。以下同じ。)
有価証券
デリバティブ取引にかかる権利(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第22条、第23条および第24条に定めるものに限ります。)
金銭債権(に掲げるものに該当するものを除きます。)
約束手形(金融商品取引法第2条第1項第15号に掲げるものを除きます。)
 - (2) 次に掲げる特定資産以外の資産
為替手形
2. 委託会社は、信託金を、主として東京海上アセットマネジメント株式会社を委託会社とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託会社として締結された「東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)」、「TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)」、「東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)」の受益証券および次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。
 - (1) 株券または新株引受権証書
 - (2) 国債証券
 - (3) 地方債証券
 - (4) 特別の法律により法人の発行する債券
 - (5) 社債券(新株引受権証券と社債券が一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。)
 - (6) 特定目的会社にかかる特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
 - (7) 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
 - (8) 協同組織金融機関にかかる優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
 - (9) 特定目的会社にかかる優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
 - (10) コマーシャル・ペーパー
 - (11) 新株引受権証券(新株引受権証券と社債券が一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。)および新株予約権証券
 - (12) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、上記(1)から(11)までの証券または証書の性質を有するもの
 - (13) 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)

- (14) 投資証券、投資法人債券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
- (15) 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
- (16) オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限ります。）
- (17) 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
- (18) 外国法人が発行する譲渡性預金証書
- (19) 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
- (20) 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
- (21) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
- (22) 受益証券発行信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定めるものをいい、上記(1)から(21)に該当するものを除きます。）
- (23) 外国の者に対する権利で上記(21)および(22)の有価証券の性質を有するもの
- なお、(1)の証券または証書、(12)および(17)の証券または証書のうち(1)の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、(2)から(6)までの証券、(12)および(17)の証券または証書のうち(2)から(6)までの証券の性質を有するものならびに(14)の投資法人債券を以下「公社債」といい、(13)の証券および(14)の証券（投資法人債券を除きます。）を以下「投資信託証券」といいます。
3. 委託会社は、信託金を、上記2. に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。
- (1) 預金
- (2) 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- (3) コール・ローン
- (4) 手形割引市場において売買される手形
- (5) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
- (6) 外国の者に対する権利で上記(5)の権利の性質を有するもの
4. 上記2. の規定にかかわらず、当ファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときは、委託会社は、信託金を、上記3. に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(3) 【運用体制】

当ファンドの運用は、基本資産配分に基づき、3資産（海外株式、海外債券、海外REIT）の各マザーファンドへの投資を行います。各マザーファンドの運用方針は、毎月開催される投資政策委員会において決定します。



当ファンドは運用戦略部が社内規則である「投資運用業に係る業務運営規程」に基づき運用を担当します。各マザーファンドについては、海外株式および海外REITをクオンツ企画運用部が、海外債券を運用戦略部が、同じく「投資運用業に係る業務運営規程」に基づき運用を担当します。

運用におけるリスク管理は、運用管理部(5~10名程度)による法令・運用ガイドライン等の遵守状況のチェックや運用リスク項目のチェック等が随時実施され、担当運用部へフィードバックされるとともに、原則として月1回開催される運用管理委員会(管理本部長を委員長に、運用・営業・商品企画などファンド運用に関係する各部長が参加)において投資行動の評価が行われます。(リスク管理についての詳細は、「3 投資リスク」の「3.管理体制」をご参照ください)

この運用管理委員会での評価もふまえて、投資政策委員会(運用本部長を委員長とし、各運用部長が参加)において運用方針を決定し、より質の高い運用体制の維持・向上を目指します。

なお、当ファンドが投資対象とする「東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)」はウエスタン・アセット・マネジメント株式会社に運用の指図に関する権限を委託します。また、同社は、運用の指図権限の一部をウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーおよびウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッドに再委託します。委託会社は、運用状況について随時確認できる体制を構築しています。このほか委託会社においては、運用委託先および運用再委託先の運用、リスク管理、コンプライアンス、バックオフィスの各機能について定期的に確認を行っています。

また、受託銀行等の管理については、関連部署において、受託銀行業務等に関する「内部統制の整備及び運用状況報告書」の入手・検証、現地モニタリング等を通じて実施しております。

(上記の体制や人員等については、2020年1月1日現在)

(4)【配分方針】

年1回(原則として6月23日、休業日の場合は翌営業日)決算を行い、毎決算時に原則として以下の通り収益分配を行う方針です。

分配対象額は、経費控除後の、繰越分を含めた配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とし、委託会社が基準価額の水準、市況動向等を勘案して収益分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。なお、収益の分配に充当せず、信託財産内に留保した利益については、投資方針に基づいて運用を行います。

信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

- a. 配当金、利子、貸付有価証券にかかる品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額(「配当等収益」といいます。)は、諸経費()、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
 - b. 売買損益に評価損益を加減した利益金額(以下「売買益」といいます。)は、諸経費()、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
- () 諸経費とは、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用(消費税等相当額を含みます。)、信託財産の財務諸表の監査に要する費用(消費税等相当額を含みます。)ならびに受託会社の立替えた立替金の利息をいいます。

計算期末において信託財産に損失が生じた場合は、次期に繰越します。

分配金は、毎計算期間終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として決算日から起算して5営業日まで)から、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、)に、お支払いします。なお、「分配金再投資コース」をお申込みの場合は、分配金は税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(5)【投資制限】

運用の基本方針に基づく制限(約款別紙「運用の基本方針」)

- a. 委託会社は、信託財産に属する株式の時価総額とマザーファンドに属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の30を超えることとなる投資の指図をしません。
信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。(以下同じ)
- b. 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
- c. 委託会社は、信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドに属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。
- d. 委託会社は、信託財産に属する投資信託証券(マザーファンド受益証券ならびに取引所に上場し、かつ当該取引所において常時売却可能な投資信託証券、また既に組入れていた株式等が転換等によ

り投資信託証券に該当することとなった投資信託証券を除きます。)の時価総額とマザーファンドに属する投資信託証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

- e. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額とマザーファンドに属する当該同一銘柄の株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- f. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドに属する当該同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- g. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。)の時価総額とマザーファンドに属する当該同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

投資する株式等の範囲(約款第19条)

- a. 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものおよび取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。
- b. 上記a.の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託会社が投資することを指図することができるものとします。

信用取引(約款第21条)

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、株券の引渡または買戻により行うことの指図をすることができるものとします。
- b. 上記a.の信用取引の指図は、当該売付にかかる建玉の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該売付にかかる建玉の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- c. 信託財産の一部解約等の事由により、上記b.の売付にかかる建玉の時価総額の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。

先物取引等(約款第22条)

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、日本国内の取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。)ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めるものとします(以下同じ。)
- b. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、日本国内の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。
- c. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、日本国内の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

スワップ取引(約款第23条)

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。
 - b. スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
 - c. スワップ取引の評価は、市場実勢金利等をもとに算出した価額で行うものとします。
 - d. 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入が必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入の指図を行うものとします。
- 金利先渡取引および為替先渡取引(約款第24条)

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- b. 金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- c. 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、市場実勢金利等をもとに算出した価額で行うものとします。
- d. 委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入が必要と認められたときは、担保の提供あるいは受入の指図を行うものとします。
- デリバティブ取引等に係る投資制限(約款第24条の2)
- デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところにしたがい、合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないものとします。
- 有価証券の貸付(約款第25条)
- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。
- ・株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
 - ・公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- b. 上記a. に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- c. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認められたときは、担保の受入の指図を行うものとします。
- 有価証券の空売(約款第26条)
- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産において有しない有価証券または下記「有価証券の借入」の規定により借入れた有価証券を売付けるとの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、売付けた有価証券の引渡または買戻により行うことの指図をすることができるものとします。
- b. 上記a. の売付の指図は、当該売付にかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内で行うことができるものとします。
- c. 信託財産の一部解約等の事由により、上記b. の売付にかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その額を超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。
- 有価証券の借入(約款第27条)
- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、有価証券の借入の指図をすることができます。なお、当該有価証券の借入を行うにあたり担保の提供が必要と認められたときは、担保の提供の指図を行うものとします。
- b. 上記a. の借入の指図は、当該借入にかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内で行うことができるものとします。
- c. 信託財産の一部解約等の事由により、上記b. の借入にかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた有価証券の一部を返還するための指図をするものとします。
- d. 上記a. の借入にかかる品借料は信託財産中から支弁します。
- 特別な場合の外貨建有価証券への投資制限(約款第28条)
- 外貨建有価証券への投資については、日本の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。
- 外国為替予約取引(約款第29条)
- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する外貨建資産(マザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額を含みます。)の為替変動リスクを回避するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。
- b. 上記a. の指図は、信託財産にかかる為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産(マザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額を含みます。)の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。
- c. 信託財産の一部解約等の事由により上記b. の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内にその超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。
- 信用リスク集中回避のための投資制限(約款第29条の2)

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

資金の借入(約款第35条)

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b. 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。
- c. 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- d. 借入金の利息は信託財産中から支弁します。

3【投資リスク】

1. 投資リスク

以下の記載は、当ファンドが主要投資対象とするマザーファンドを組み入れることにより、当ファンドが間接的に受ける実質的なリスクを含みます。

(1) 価格変動リスク

当ファンドは、主に海外の株式、公社債およびREITなど値動きのある証券を実質的な投資対象としますので、基準価額は変動します。したがって、当ファンドは元本が保証されているものではありません。

委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家に帰属します。

投資信託は預貯金や保険と異なります。

当ファンドへの投資には主に以下のリスクが想定され、これらの影響により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

株価変動リスク

株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績・財務状況、市場の需給等を反映して変動します。株価は、短期的または長期的に大きく下落することがあります(発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。)。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。

金利変動リスク

公社債は、一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、反対に金利が下落した場合には価格は上昇します。したがって、金利が上昇した場合、基準価額が下落する要因となります。

信用リスク

一般に、公社債や短期金融商品等の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合、またはデフォルトが予想される場合には、当該公社債等の価格は大幅に下落することになります。したがって、組入公社債等にデフォルトが生じた場合、またデフォルトが予想される場合には、基準価額が下落する要因となります。

REITの価格変動リスク

REITの価格は、REITが保有する不動産の評価の下落、不動産市況に対する見通しや需給など、さまざまな要因を反映して変動します。組入REITの価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。

為替変動リスク

外貨建資産の円換算価値は、資産自体の価格変動の他、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。為替レートは、各国・地域の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向にすすんだ場合には、基準価額が下落する要因となります。なお、当ファンドは原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。また、円金利がヘッジ対象通貨建ての金利より低い場合、これらの金利差相当分のヘッジコストがかかります。ただし、為替市場における需給の影響等によっては、金利差相当分以上のヘッジコストがかかる場合があります。

カントリーリスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想以上に下落したり、投資方針に沿った運用が困難となることがあります。

また、投資対象国・地域には新興国が含まれています。新興国を取巻く社会的・経済的環境は不透明な場合もあり、金融危機、デフォルト、重大な政策変更や様々な規制の新たな導入等による投資環境の変化が、先進国への投資に比べてより大きなリスク要因となることがあります。

さらに、新興国においては市場規模が小さく流動性が低い場合があり、そのため組入資産の価格変動が大きくなることがあります。

流動性リスク

受益者から解約申込があった場合、組入資産を売却することで解約資金の手当てを行うことがあります。その際、組入資産の市場における流動性が低いときには直前の市場価格よりも大幅に安い価格で売却せざるを得ないことがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

(2) デリバティブ取引のリスク

当ファンドはデリバティブに投資することがあります。デリバティブの運用には、ヘッジする商品とヘッジされるべき資産との間の相関性を欠いてしまう可能性、流動性を欠く可能性、証拠金を積むことによるリスク等様々なリスクが伴います。これらの運用手法は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避する目的のみならず、効率的な運用に資する目的でも用いられることがあります。実際の価格変動が委託会社の見通しと異なった場合に当ファンドが損失を被るリスクを伴います。

2. その他の留意事項

(1) 一般的な留意事項

投資信託は、その商品性格から次の特徴をご理解のうえご購入ください。

- ・投資信託は株式・公社債などの値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。
- ・投資信託は金融機関の預金と異なり元金が保証されているものではありません。
- ・投資信託は保険契約および預金ではありません。
- ・投資信託は保険契約者保護機構の補償対象契約ではありません。
- ・投資信託は預金保険の対象ではありません。
- ・登録金融機関から購入した投資信託は投資者保護基金の補償対象ではありません。
- ・当ファンドは、主に海外の株式、公社債およびREITを実質的な投資対象としています。当ファンドの基準価額は、組入れた有価証券の値動きやそれらの有価証券の発行者の信用状況の変化、為替相場の変動等の影響により上下しますので、投資元本を割り込むことがあります。したがって、当ファンドは元本が保証されているものではありません。
- ・委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家に帰属します。

(2) 法令・税制・会計等の変更可能性

法令・税制・会計方法等は今後変更される可能性があります。

(3) その他の留意点

取得申込者から販売会社に申込代金が支払われた場合であっても、販売会社より委託会社に対して申込代金の払込が現実になされるまでは、当ファンドも委託会社もいかなる責任も負わず、かつその後、受託会社に払込がなされるまでは、取得申込者は受益権および受益権に付随するいかなる権利も取得しません。

一部解約金、収益分配金および償還金の支払は全て販売会社を通じて行われます。

委託会社は、販売会社とは別法人であり、委託会社は設定・運用を善良なる管理者の注意をもって行う責任を負担し、販売会社は販売（申込代金の預り等を含みます。）について責任を負担しており、互いに他について責任を負担しません。

受託会社は、委託会社に収益分配金、一部解約金および償還金を委託会社の指定する預金口座等へ払い込んだ後は、受益者に対し、それらを支払う責任を負いません。

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・解約等に伴う資金変動等があり、その結果、当該マザーファンドにおいて売買等が生じた場合等には、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも

計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全額が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

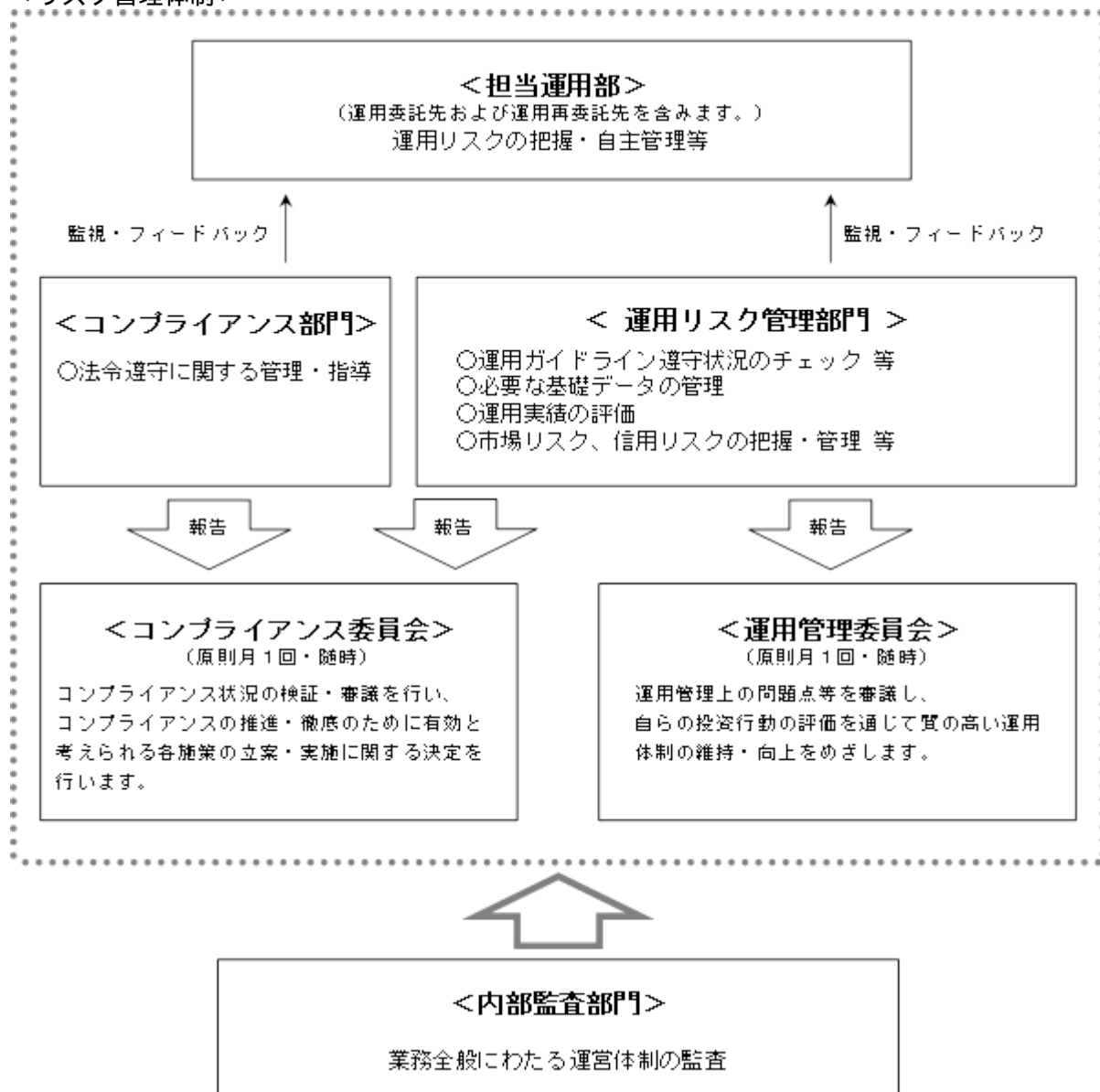
3. 管理体制

委託会社のリスク管理体制は、担当運用部が自主管理を行うと同時に、担当運用部とは独立した部門において厳格に実施される体制としています。

法令等の遵守状況についてはコンプライアンス部門が、運用リスクの各項目および運用ガイドラインの遵守状況については運用リスク管理部門が、それぞれ適切な運用が行われるよう監視し、担当運用部へのフィードバックおよび所管の委員会への報告・審議を行っています。

これらの内容については、社長をはじめとする関係役員に随時報告が行われるとともに、内部監査部門がこれらの業務全般にわたる運営体制の監査を行うことで、より実効性の高いリスク管理体制を構築しております。

<リスク管理体制>



参考情報

2015年1月～2019年12月

ファンドの年間騰落率および
分配金再投資基準価額の推移

過去5年間の各月末における分配金再投資基準価額と直近1年間の騰落率を表示したものです。



※分配金再投資基準価額は、税引前分配金を再投資したものととして計算した基準価額であり、実際の基準価額とは異なる場合があります。

※年間騰落率は、税引前分配金を再投資したものととして計算しているため、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

ファンドと代表的な資産クラスとの
騰落率の比較

ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。過去5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。



※全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドは分配金再投資基準価額の年間騰落率です。税引前分配金を再投資したものととして計算しているため、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドは2018年7月以降の年間騰落率を用いています。

代表的な資産クラスと指数名

日本株	TOPIX (東証株価指数) (配当込み)
先進国株	MSCIコクサイ指数 (配当込み、円ベース)
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)
新興国債	JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

指数について

●TOPIXは東京証券取引所が発表している東証市場第一部全銘柄の動きを捉える株価指数です。TOPIXの指数値および指標は、東京証券取引所の知的財産であり、TOPIXに関するすべての権利およびノウハウは東京証券取引所が有します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の方法の変更、公表の停止、TOPIXの指標の変更、使用の停止を行う場合があります。●MSCIコクサイ指数 (配当込み、円ベース)とは、MSCI社が発表している日本を除く主要先進国の株式市場の動きを捉える代表的な株価指標です。同指数の著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI社に帰属します。また、MSCI社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI社の許諾なしにインデックスの一部または全部を複製、頒布、使用等することは禁じられています。MSCI社はファンドとは関係なく、ファンドから生じるいかなる責任も負いません。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)は、MSCI社が発表している新興国の株式市場の動きを捉える代表的な指標です。同指数の著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI社に帰属します。また、MSCI社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI社の許諾なしにインデックスの一部または全部を複製、頒布、使用等することは禁じられています。MSCI社はファンドとは関係なく、ファンドから生じるいかなる責任も負いません。●NOMURA-BPI (国債)は、野村證券が公表する日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI (国債)に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券に帰属します。●FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性及び完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象とした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

(注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

上記は過去の実績であり、将来の動向等を示唆・保証するものではありません。

4 【手数料等及び税金】

(1) 【申込手数料】

発行価格に1.65% (税抜1.5%) の率を乗じて得た額を上限として販売会社が個別に定める額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。申込手数料には、消費税等が含まれます。

申込手数料は、商品の説明、購入に関する事務コスト等の対価として、申込時にご負担いただくものです。

分配金再投資コースの収益分配金の再投資により取得する口数については、手数料はありません。

(2)【換金(解約)手数料】

換金時(解約時)の手数料はありません。

(3)【信託報酬等】

委託会社、販売会社および受託会社の信託報酬の総額は信託財産の純資産総額に対し、年率0.99%(税抜0.9%)を乗じて得た金額とし、計算期間を通じて、毎日計上します。

の信託報酬(消費税等相当額を含みます。)は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。

信託報酬の配分(税抜)については以下の通りとします。

委託会社 ^{*1}	販売会社 ^{*2}	受託会社 ^{*3}
年率0.44%	年率0.44%	年率0.02%

*1 委託した資金の運用、基準価額の計算、目論見書作成等の対価

*2 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価

*3 運用財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行の対価

「東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)」の運用委託先であるウエスタン・アセット・マネジメント株式会社が受ける報酬は、委託会社が受ける報酬から支払うこととし、その報酬額は当該マザーファンドの純資産総額に対して以下の料率を乗じて得た額とします。報酬の支払いは、毎年6月30日および12月31日または信託終了のときに行うものとします。

50億円以下の部分	年率0.3%
50億円超の部分	年率0.15%

(4)【その他の手数料等】

信託財産の財務諸表の監査に要する費用(消費税等相当額を含みます。)は、監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用であり、毎日、純資産総額に対し、年率0.011%(税抜0.01%)を乗じて得た金額(ただし、年99万円(税抜90万円)の1日分相当額を上限とします。)を計上し、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。

信託財産に関する租税および信託事務等に要する諸費用(消費税等相当額を含みます。)ならびに受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、先物・オプション取引に要する費用、外国における資産の保管等に要する費用等(全て消費税等相当額を含みます。)は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

信託財産の一部解約に伴う支払資金の手当て、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当て等を目的として資金借入れの指図を行った場合、借入金の利息は受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

監査費用を除くその他の手数料等については実際の取引等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

上記(1)から(4)の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

(5)【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として以下のような取扱いとなります。なお、税法が改正された場合は、以下の内容が変更になることがあります。また、以下は一般的な記載に過ぎませんので、課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認ください。

<個人の受益者に対する課税>

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、配当所得として課税され、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315% および地方税5%)の税率による源泉徴収が行われます。申告不要制度の適用がありますが、総合課税または申告分離課税を選択することも可能です。いずれの場合も配当控除の適用はありません。申告分離課税を選択した場合の税率は、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%)となります。収益分配金のうち課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金(特別分配金)(1)は課税されません。

2037年12月31日までの間、復興特別所得税（所得税15%×2.1%）が付加されます。

解約時および償還時の差益（解約時および償還時の価額から取得費（申込手数料（税込）を含む）を控除した差額）は、その全額が譲渡所得等の金額とみなされ課税対象となります。譲渡所得等については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます（特定口座（源泉徴収選択口座）での取扱いも可能です。）。

普通分配金（申告分離課税を選択したものに限り、）ならびに解約時および償還時の損益については、確定申告により、上場株式等（特定公社債および公募公社債投信を含みます。）の利子所得および配当所得（申告分離課税を選択したものに限り、）ならびに譲渡所得等との間で損益通算を行うことができます。

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」をご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託や上場株式等から生じる配当所得および譲渡所得等が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設する等、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記とは異なる場合があります。

< 法人の受益者に対する課税 >

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の「各受益者の個別元本」（2）超過額については、15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）の税率による源泉徴収が行われます。地方税の源泉徴収はありません。収益分配金のうち課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）（1）は課税されません。
なお、益金不算入制度の適用はありません。

- （1）「元本払戻金（特別分配金）」とは、収益分配金落ち後の基準価額が各受益者の個別元本を下回る場合、収益分配金のうち当該下回る部分に相当する額をさし、元本の一部払戻しに相当するものです。この場合、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。
- （2）「各受益者の個別元本」とは、原則として各受益者の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。）をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、元本払戻金（特別分配金）が支払われた際に調整されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合や、同一販売会社であっても複数の支店等で同一ファンドを取得する場合等は、個別元本の算出方法が異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

* 上記は、2019年12月末現在のもので、税法が改正された場合等には、内容等が変更される場合があります。

5【運用状況】

以下は2019年12月30日現在の運用状況です。

また、投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(1)【投資状況】

資産の種類	地域	時価合計（円）	投資比率（%）
親投資信託受益証券	日本	1,503,787,781	100.01
コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）		246,395	0.01
合計（純資産総額）		1,503,541,386	100.00

（ご参考：親投資信託の投資状況）

当ファンドが主要投資対象とする親投資信託の投資状況は以下の通りです。

TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド（為替ヘッジあり）

資産の種類	地域	時価合計（円）	投資比率（%）
株式	アメリカ	4,573,879,859	53.09
	カナダ	635,184,671	7.37
	ドイツ	496,854,946	5.76

	フランス	403,203,347	4.68
	オーストラリア	407,724,575	4.73
	イギリス	376,369,559	4.36
	スイス	571,778,800	6.63
	香港	97,116,008	1.12
	シンガポール	76,997,043	0.89
	ニュージーランド	18,277,526	0.21
	オランダ	229,595,281	2.66
	ベルギー	69,206,670	0.80
	スウェーデン	164,054,792	1.90
	ノルウェー	36,846,284	0.42
	フィンランド	58,383,937	0.67
	デンマーク	118,161,016	1.37
	小計	8,333,634,314	96.73
投資証券	アメリカ	203,772,067	2.36
コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）		77,904,839	0.90
合計（純資産総額）		8,615,311,220	100.00

東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド（為替ヘッジあり）

資産の種類	地域	時価合計（円）	投資比率（％）
国債証券	イタリア	37,603,849	1.85
	フランス	47,739,133	2.35
	コロンビア	86,845,473	4.27
	ウルグアイ	51,925,523	2.55
	カタール	72,710,589	3.58
	アラブ首長国連邦	25,498,994	1.25
	クウェート	23,546,635	1.16
	小計	345,870,196	17.04
特殊債券	メキシコ	34,911,978	1.72
	インド	27,800,850	1.36
	ペルー	33,658,886	1.65
	小計	96,371,714	4.74
社債券	アメリカ	230,326,732	11.35
	ドイツ	29,128,982	1.43
	イタリア	33,153,422	1.63
	フランス	56,379,680	2.77
	オーストラリア	15,587,088	0.76
	イギリス	187,045,541	9.21
	スイス	40,445,226	1.99
	オランダ	252,513,775	12.44
	スペイン	63,535,320	3.13
	ベルギー	16,818,151	0.82
	スウェーデン	14,749,744	0.72
	ノルウェー	14,903,314	0.73

	フィリピン	13,599,135	0.67
	ルクセンブルク	82,880,109	4.08
	デンマーク	12,136,361	0.59
	インドネシア	100,113,407	4.93
	メキシコ	21,828,734	1.07
	チリ	75,007,515	3.69
	インド	34,212,301	1.68
	ペルー	35,829,406	1.76
	ケイマン	39,262,469	1.93
	パナマ	45,112,118	2.22
	カザフスタン	52,986,502	2.61
	ジャージー	25,463,812	1.25
	英ヴァージン諸島	46,037,112	2.26
	小計	1,539,055,956	75.84
	コール・ローン等、その他の資産(負債控除後)	47,969,726	2.36
	合計(純資産総額)	2,029,267,592	100.00

東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)

資産の種類	地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資証券	アメリカ	323,887,014	75.94
	フランス	19,876,723	4.66
	オーストラリア	42,447,800	9.95
	イギリス	6,273,025	1.47
	シンガポール	27,332,263	6.40
	小計	419,816,825	98.43
コール・ローン等、その他の資産(負債控除後)		6,670,879	1.56
合計(純資産総額)		426,487,704	100.00

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a. 主要銘柄の明細

順位	銘柄名	地域	種類	口数	帳簿価額		評価額		投資比率(%)
					単価(円)	金額(円)	単価(円)	金額(円)	
1	東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)	日本	親投資信託受益証券	987,572,215	1.0460	1,033,029,704	1.0669	1,053,640,796	70.07
2	TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)	日本	親投資信託受益証券	126,021,717	1.7061	215,012,861	1.8150	228,729,416	15.21
3	東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)	日本	親投資信託受益証券	186,708,466	1.1925	222,664,331	1.1859	221,417,569	14.72

b. 投資有価証券の種類

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	100.01

合 計	100.01
-----	--------

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(ご参考：親投資信託の投資資産)

投資有価証券の主要銘柄

a. 主要銘柄の明細

T M A 高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)

順位	銘柄名	地域	業種	種類	株式数	帳簿価額		評価額		投資比率(%)
						単価(円)	金額(円)	単価(円)	金額(円)	
1	NEWMONT GOLDCORP CORPORATION	アメリカ	素材	株式	38,200	3,980.40	152,051,289	4,679.30	178,749,550	2.07
2	ALSTOM	フランス	資本財	株式	33,500	4,637.66	155,361,731	5,226.33	175,082,088	2.03
3	HANNOVER RUECK SE	ドイツ	保険	株式	8,100	16,134.71	130,691,168	21,370.97	173,104,905	2.00
4	SYSCO CORP	アメリカ	食品・生活必需品 小売り	株式	18,300	7,441.83	136,185,551	9,393.67	171,904,241	1.99
5	NN GROUP NV	オランダ	保険	株式	40,900	4,452.84	182,121,189	4,176.16	170,805,074	1.98
6	JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	銀行	株式	11,200	12,281.97	137,558,136	15,244.17	170,734,798	1.98
7	LAMB WESTON HOLDING INC	アメリカ	食品・飲料・タバコ	株式	18,100	7,468.62	135,182,127	9,429.82	170,679,908	1.98
8	OMNICOM GROUP	アメリカ	メディア・娯楽	株式	19,200	8,308.99	159,532,789	8,856.83	170,051,143	1.97
9	NEXTERA ENERGY INC	アメリカ	公益事業	株式	6,400	20,968.22	134,196,659	26,569.39	170,044,131	1.97
10	OGE ENERGY CORP	アメリカ	公益事業	株式	35,200	4,734.63	166,659,057	4,823.92	169,802,223	1.97
11	HORMEL FOODS CORP	アメリカ	食品・飲料・タバコ	株式	34,100	4,711.44	160,660,240	4,958.68	169,091,178	1.96
12	CME GROUP INC	アメリカ	各種金融	株式	7,600	19,819.73	150,629,982	22,216.57	168,845,983	1.95
13	AXA	フランス	保険	株式	54,500	2,846.02	155,108,222	3,089.23	168,363,220	1.95
14	COMERICA INC	アメリカ	銀行	株式	21,300	9,473.52	201,786,056	7,805.05	166,247,658	1.92
15	PROCTER & GAMBLE CO	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	株式	12,000	11,144.75	133,737,071	13,814.42	165,773,044	1.92
16	PEPSICO INC	アメリカ	食品・飲料・タバコ	株式	11,000	12,936.97	142,306,695	15,068.88	165,757,706	1.92
17	COCA-COLA COMPANY	アメリカ	食品・飲料・タバコ	株式	27,300	5,033.53	137,415,626	6,064.14	165,551,185	1.92
18	VERIZON COMMUNICATIONS INC	アメリカ	電気通信サービス	株式	24,500	6,308.60	154,560,809	6,741.22	165,160,056	1.91
19	AMERICAN FINANCIAL GROUP INC	アメリカ	保険	株式	13,800	10,943.93	151,026,272	11,961.76	165,072,299	1.91
20	NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	株式	13,800	10,323.71	142,467,249	11,959.36	165,039,168	1.91
21	EVERGY INC	アメリカ	公益事業	株式	23,500	6,183.29	145,307,516	7,019.50	164,958,466	1.91

22	SONIC HEALTHCARE LTD	オーストラリア	ヘルスケア機器・サービス	株式	73,000	1,876.27	136,967,739	2,249.68	164,227,224	1.90
23	DOMINION ENERGY INC	アメリカ	公益事業	株式	18,100	8,265.95	149,613,713	8,983.92	162,608,952	1.88
24	SWISSCOM AG-REG	スイス	電気通信サービス	株式	2,800	52,260.96	146,330,707	58,065.84	162,584,352	1.88
25	DTE ENERGY COMPANY	アメリカ	公益事業	株式	11,200	13,591.85	152,228,731	14,120.09	158,145,039	1.83
26	DEUTSCHE TELEKOM AG-REG	ドイツ	電気通信サービス	株式	87,600	1,875.11	164,259,697	1,803.29	157,968,960	1.83
27	AMEREN CORPORATION	アメリカ	公益事業	株式	18,700	7,934.13	148,368,258	8,359.42	156,321,303	1.81
28	DARDEN RESTAURANTS INC	アメリカ	消費者サービス	株式	13,100	12,271.04	160,750,740	11,833.57	155,019,840	1.79
29	L3HARRIS TECHNOLOGIES INC	アメリカ	資本財	株式	7,000	19,247.68	134,733,806	22,099.34	154,695,433	1.79
30	CAN IMPERIAL BK OF COMMERCE	カナダ	銀行	株式	17,000	9,536.26	162,116,568	9,073.61	154,251,524	1.79

東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)

順位	銘柄名	地域	種類	利率	償還期限	額面	帳簿価額		評価額		投資比率(%)
							単価(円)	金額(円)	単価(円)	金額(円)	
1	COLOM 3 7/8 04/25/27	コロンビア	国債証券	3.875	2027/04/25	750,000	11,571.80	86,788,501	11,579.39	86,845,473	4.27
2	QATAR 4 03/14/29	カタール	国債証券	4.000	2029/03/14	600,000	11,815.68	70,894,084	12,118.43	72,710,589	3.58
3	URUGUA 4 3/8 10/27/27	ウルグアイ	国債証券	4.375	2027/10/27	430,000	11,816.04	50,808,997	12,075.70	51,925,523	2.55
4	FRTR 2 05/25/48	フランス	国債証券	2.000	2048/05/25	300,000	15,487.83	46,463,491	15,913.04	47,739,133	2.35
5	SINOPE 3 5/8 04/12/27	英ヴァージン諸島	社債券	3.625	2027/04/12	400,000	11,383.01	45,532,040	11,509.27	46,037,112	2.26
6	CDEL 3 5/8 08/01/27	チリ	社債券	3.625	2027/08/01	400,000	11,497.80	45,991,206	11,421.63	45,686,520	2.25
7	EMTESA 5 1/8 05/02/49	パナマ	社債券	5.125	2049/05/02	360,000	11,957.32	43,046,365	12,531.14	45,112,118	2.22
8	YANTZE 3.15 06/02/26	ケイマン	社債券	3.150	2026/06/02	350,000	10,989.96	38,464,872	11,217.84	39,262,469	1.93
9	PERTIJ 6 05/03/42	インドネシア	社債券	6.000	2042/05/03	290,000	12,462.45	36,141,105	13,314.82	38,612,997	1.90
10	BTPS 1 07/15/22	イタリア	国債証券	1.000	2022/07/15	300,000	12,450.06	37,350,192	12,534.61	37,603,849	1.85
11	PETRPE 4 3/4 06/19/32	ペルー	社債券	4.750	2032/06/19	300,000	11,844.53	35,533,594	11,943.13	35,829,406	1.76
12	BNCE 4 3/8 10/14/25	メキシコ	特殊債券	4.375	2025/10/14	300,000	11,134.03	33,402,105	11,637.32	34,911,978	1.72
13	PLNIJ 4 1/8 05/15/27	インドネシア	社債券	4.125	2027/05/15	300,000	11,117.05	33,351,159	11,534.47	34,603,430	1.70
14	INRCIN 3.835 12/13/27	インド	社債券	3.835	2027/12/13	300,000	11,071.03	33,213,114	11,404.10	34,212,301	1.68
15	MIVIVI 3 1/2 01/31/23	ペルー	特殊債券	3.500	2023/01/31	300,000	11,110.06	33,330,206	11,219.62	33,658,886	1.65

16	BMETR 4 3/4 02/04/24	チリ	社債券	4.750	2024/02/04	250,000	11,794.81	29,487,046	11,728.39	29,320,995	1.44
17	KZOKZ 4 3/4 04/19/27	カザフスタン	社債券	4.750	2027/04/19	240,000	11,766.74	28,240,185	12,031.05	28,874,538	1.42
18	EXIMBK 3 3/8 08/05/26	インド	特殊債券	3.375	2026/08/05	250,000	10,919.84	27,299,613	11,120.34	27,800,850	1.36
19	IDASAL 6.53 11/15/28	インドネシア	社債券	6.530	2028/11/15	200,000	13,284.15	26,568,300	13,448.49	26,896,980	1.32
20	UBS 1 1/4 09/01/26	スイス	社債券	1.250	2026/09/01	200,000	12,843.41	25,686,834	12,923.06	25,846,136	1.27
21	BAC 1.379 02/07/25	アメリカ	社債券	1.379	2025/02/07	200,000	12,773.56	25,547,139	12,821.36	25,642,720	1.26
22	ADGB 4 1/8 10/11/47	アラブ首長国 連邦	国債証券	4.125	2047/10/11	200,000	12,062.55	24,125,112	12,749.49	25,498,994	1.25
23	GLENLN 1 3/4 03/17/25	ジャージー	社債券	1.750	2025/03/17	200,000	12,769.77	25,539,541	12,731.90	25,463,812	1.25
24	ANNFND 1.65 07/12/24	イギリス	社債券	1.650	2024/07/12	200,000	12,522.36	25,044,725	12,715.97	25,431,951	1.25
25	BPLN 1.573 02/16/27	イギリス	社債券	1.573	2027/02/16	190,000	13,204.91	25,089,329	13,262.50	25,198,757	1.24
26	C 1 3/4 01/28/25	アメリカ	社債券	1.750	2025/01/28	190,000	13,137.51	24,961,275	13,154.66	24,993,871	1.23
27	GE 0 7/8 05/17/25	アメリカ	社債券	0.875	2025/05/17	200,000	12,252.03	24,504,078	12,331.20	24,662,400	1.21
28	RDSALN 1 7/8 09/15/25	オランダ	社債券	1.875	2025/09/15	180,000	13,695.07	24,651,126	13,534.54	24,362,177	1.20
29	DT 4 7/8 04/22/25	オランダ	社債券	4.875	2025/04/22	160,000	15,360.38	24,576,622	15,131.23	24,209,982	1.19
30	KZTGKZ 4 3/8 09/26/27	カザフスタン	社債券	4.375	2027/09/26	210,000	11,086.37	23,281,390	11,481.88	24,111,964	1.18

東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)

順位	銘柄名	地域	種類	口数	帳簿価額		評価額		投資 比率 (%)
					単価 (円)	金額(円)	単価 (円)	金額(円)	
1	AMERICAN TOWER CORP	アメリカ	投資証券	1,773	23,448.86	41,574,829	25,098.00	44,498,762	10.43
2	PROLOGIS INC	アメリカ	投資証券	3,858	8,875.45	34,241,507	9,714.68	37,479,255	8.78
3	AVALONBAY COMMUNITIES INC	アメリカ	投資証券	1,196	22,766.56	27,228,815	22,880.51	27,365,090	6.41
4	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ	投資証券	2,953	8,630.04	25,484,511	8,868.88	26,189,808	6.14
5	GPT GROUP	オーストラリア	投資証券	54,214	475.35	25,770,861	447.64	24,268,463	5.69
6	REALTY INCOME CORP	アメリカ	投資証券	3,003	8,054.85	24,188,718	8,025.26	24,099,885	5.65
7	PUBLIC STORAGE	アメリカ	投資証券	999	26,216.61	26,190,395	23,187.27	23,164,091	5.43
8	ALEXANDRIA REAL ESTATE EQUITIES INC	アメリカ	投資証券	1,248	16,633.39	20,758,482	17,573.42	21,931,633	5.14
9	GECINA SA	フランス	投資証券	1,010	17,558.75	17,734,344	19,679.92	19,876,723	4.66
10	FEDERAL REALTY INVS TRUST	アメリカ	投資証券	1,341	14,674.46	19,678,459	14,040.11	18,827,792	4.41
11	HEALTHPEAK PROPERTIES INC	アメリカ	投資証券	5,050	3,772.66	19,051,965	3,723.94	18,805,919	4.40

12	CAMDEN PROPERTY TRUST	アメリカ	投資証券	1,631	11,617.74	18,948,537	11,523.52	18,794,862	4.40
13	WELLTOWER INC	アメリカ	投資証券	1,835	9,587.59	17,593,237	8,869.97	16,276,408	3.81
14	CAPITALAND MALL TRUST	シンガポール	投資証券	71,300	209.14	14,911,848	198.62	14,161,712	3.32
15	ASCENDAS REAL ESTATE INVESTMENT TRUST	シンガポール	投資証券	54,700	239.96	13,126,205	240.77	13,170,551	3.08
16	VICINITY CENTRES	オーストラリア	投資証券	55,026	201.52	11,089,038	199.71	10,989,638	2.57
17	CROWN CASTLE INTL CORP	アメリカ	投資証券	701	14,830.04	10,395,859	15,456.72	10,835,164	2.54
18	DIGITAL REALTY TRUST INC	アメリカ	投資証券	777	13,043.92	10,135,126	12,947.80	10,060,441	2.35
19	MID-AMERICA APARTMENT COMMUNITIES INC	アメリカ	投資証券	562	13,895.88	7,809,488	14,242.79	8,004,453	1.87
20	SCENTRE GROUP	オーストラリア	投資証券	23,908	304.54	7,281,171	300.72	7,189,699	1.68
21	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	投資証券	397	17,977.70	7,137,147	16,169.95	6,419,474	1.50
22	SEGRO PLC	イギリス	投資証券	4,860	1,242.56	6,038,865	1,290.74	6,273,025	1.47
23	EQUINIX INC	アメリカ	投資証券	96	57,714.01	5,540,545	63,818.69	6,126,595	1.43
24	NATIONAL RETAIL PROPERTIES INC	アメリカ	投資証券	863	6,045.70	5,217,440	5,802.29	5,007,382	1.17

b. 投資有価証券の種類

T M A 高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド（為替ヘッジあり）

種類	国内 / 国外	業種	投資比率 (%)
株式	国外	エネルギー	0.19
		素材	5.24
		資本財	3.82
		消費者サービス	1.79
		メディア・娯楽	2.32
		小売	1.74
		食品・生活必需品小売り	3.14
		食品・飲料・タバコ	14.73
		家庭用品・パーソナル用品	1.92
		ヘルスケア機器・サービス	5.29
		医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	3.17
		銀行	9.55
		各種金融	2.85
		保険	14.87
		ソフトウェア・サービス	0.74
		電気通信サービス	8.08
		公益事業	17.19
投資証券		-	2.36
合計			99.09

東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)

種類	投資比率(%)
国債証券	17.04
特殊債券	4.74
社債券	75.84
合計	97.63

東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)

種類	投資比率(%)
投資証券	98.43
合計	98.43

投資不動産物件

TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)
該当事項はありません。

東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)

該当事項はありません。

東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)
該当事項はありません。

東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)

該当事項はありません。

東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)

該当事項はありません。

(3)【運用実績】

【純資産の推移】

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり 純資産額(円) (分配落)	1口当たり 純資産額(円) (分配付)
第1計算期間末	(2018年 6月25日)	1,226	1,226	0.9850	0.9850
第2計算期間末	(2019年 6月24日)	1,522	1,522	1.0454	1.0454
	2018年12月末日	1,217	-	0.9609	-
	2019年 1月末日	1,252	-	0.9866	-
	2月末日	1,273	-	0.9989	-
	3月末日	1,285	-	1.0180	-
	4月末日	1,288	-	1.0192	-
	5月末日	1,439	-	1.0205	-
	6月末日	1,487	-	1.0411	-
	7月末日	1,478	-	1.0539	-
	8月末日	1,504	-	1.0718	-
	9月末日	1,511	-	1.0689	-

10月末日	1,529	-	1.0646	-
11月末日	1,480	-	1.0647	-
12月末日	1,503	-	1.0651	-

【分配の推移】

該当事項はありません。

【収益率の推移】

期	計算期間	収益率(%) (分配付)
第1計算期間	2017年 7月12日 ~ 2018年 6月25日	1.5
第2計算期間	2018年 6月26日 ~ 2019年 6月24日	6.1
第3中間計算期間	2019年 6月25日 ~ 2019年12月24日	1.6

(4) 【設定及び解約の実績】

期	計算期間	設定口数 (口)	解約口数 (口)	発行済み口数 (口)
第1計算期間	2017年 7月12日 ~ 2018年 6月25日	1,275,754,235	30,901,524	1,244,852,711
第2計算期間	2018年 6月26日 ~ 2019年 6月24日	257,705,185	46,295,565	1,456,262,331
第3中間計算期間	2019年 6月25日 ~ 2019年12月24日	202,983,020	247,602,301	1,411,643,050

< 参考情報 >

基準日：2019年12月30日

基準価額・純資産の推移



※基準価額は信託報酬控除後のものです。後述の信託報酬に関する記載をご覧ください。

※基準価額は1万口当たりで表示しています。 ※設定日は2017年7月12日です。

分配の推移

(1万口当たり、税引前)

決算期	決算日	分配金
第1期	2018/06/25	0円
第2期	2019/06/24	0円
第3期	2020/06/23	
第4期	2021/06/23	
第5期	2022/06/23	
設定来累計		分配実績なし

※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。

主要な資産の状況

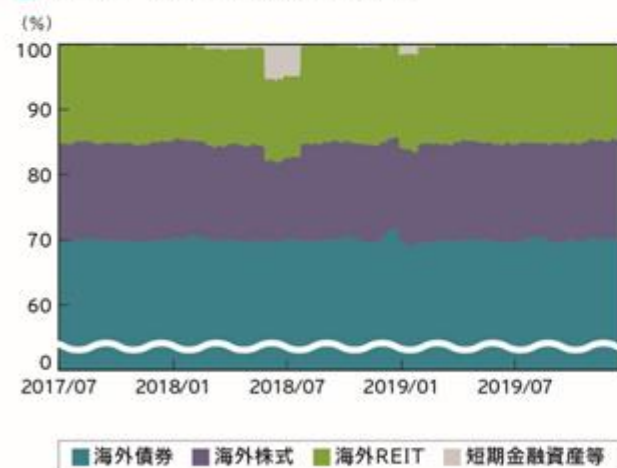
各マザーファンド組入比率、騰落率

マザーファンド	組入比率	基本資産配分	差	騰落率				
				1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
海外債券	70.1%	70.0%	+0.1%	+0.22%	-0.31%	+2.11%	+8.99%	-
海外株式	15.2%	15.0%	+0.2%	+1.54%	+3.86%	+7.54%	+21.83%	+15.75%
海外REIT	14.7%	15.0%	-0.3%	-1.74%	-3.09%	+1.42%	+16.87%	-
短期金融資産等	-0.0%	-	-0.0%					

※比率は、純資産総額に占める割合です。

※短期金融資産等には未払金等が含まれるため、組入比率がマイナスとなる場合があります。

各マザーファンド組入比率の推移



※比率は、純資産総額(一部の未払金の計上を除く)に占める割合です。

各マザーファンドの組入上位銘柄

東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド (為替ヘッジあり)

	銘柄	国	比率
1	コロンビア国債(国際)	コロンビア	4.3%
2	カタール国債(国際)	カタール	3.6%
3	ウルグアイ東方共和国	ウルグアイ	2.6%

TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド (為替ヘッジあり)

	銘柄	国	比率
1	ニューモント・ゴールドコープ	アメリカ	2.1%
2	アルストム	フランス	2.0%
3	ハノーバー再保険	ドイツ	2.0%

東京海上・世界REITマザーファンド (為替ヘッジあり)

	銘柄	国	比率
1	アメリカン・タワー	アメリカ	10.4%
2	フロロジス	アメリカ	8.8%
3	アパロンベイ・コミュニティーズ	アメリカ	6.4%

※比率は、各マザーファンドの純資産総額に占める割合です。

次ページへ続く

- ・最新の運用実績は、委託会社のホームページでご確認いただけます。
- ・ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

基準日：2019年12月30日

年間収益率の推移



※ファンドの収益率は、税引前分配金を再投資したものとして計算しており、設定日以降を表示しています。

※設定年は設定時と年末の騰落率です。当年は昨年末と基準日の騰落率です。

- ・最新の運用実績は、委託会社のホームページでご確認いただけます。
- ・ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

- a. 毎営業日にお申込みを受け付けます。ただし、お申込み日が以下の日のいずれかに該当する場合には、取得のお申込みの受付を行いません。

- ・ニューヨーク証券取引所の休業日
- ・ニューヨークの銀行の休業日
- ・ロンドン証券取引所の休業日
- ・ロンドンの銀行の休業日

b. 申込方法には、収益分配金の受取方法によって、以下の2種類のコースがあります。

分配金受取りコース	分配金を受け取るコースです。
分配金再投資コース	分配金が税引き後、自動的に無手数料で再投資されるコースです。

- c. 販売会社やお申込みのコース等によって申込単位は異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。なお、分配金再投資コースにおける収益分配金の再投資に際しては、1口単位で取得することができます。
- d. 取得申込の受付は、原則として午後3時までとします。受付時間を過ぎてからのお申込みについては翌営業日受付の取扱いとなります。
- e. 受益権の取得申込価額は以下の通りです。
 取得申込受付日の翌営業日の基準価額
 基準価額は原則として委託会社の毎営業日に算出され、販売会社または委託会社サービスデスクにお問い合わせることにより知ることができます。
 委託会社のお問い合わせ先（委託会社サービスデスク）
 東京海上アセットマネジメント サービスデスク
 0120-712-016（土日祝日・年末年始を除く9時～17時）
- f. 申込手数料は、発行価格に1.65%（税抜1.5%）の率を乗じて得た額を上限として販売会社が個別に定める額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- g. 上記にかかわらず、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情が発生し、委託会社が追加設定を制限する措置を取った場合には、販売会社は、受益権の取得申込の受付を中止すること、および既に受け付けた取得申込の受付を取り消すことができます。
- h. 取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関等への通知を行うものとし、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。委託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関等の定める方法により、振替機関等へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行います。
- i. 定時定額購入サービスを選択した取得申込者は、販売会社との間で定時定額購入サービスに関する取り決めを行います。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

2【換金（解約）手続等】

- a. 受益者は、自己に帰属する受益権につき、一部解約の実行請求（解約請求）の方法によりご換金の請求を行うことができます。
- b. ご換金のお申込みは販売会社で受け付けます。なお、販売会社の買取りによるご換金の請求については、販売会社にお問い合わせください。
- c. 解約請求による換金のお申込みは、毎営業日に行うことができます。ただし、解約請求日が以下の日のいずれかに該当する場合には、お申込みの受付を行いません。
 ・ニューヨーク証券取引所の休業日
 ・ニューヨークの銀行の休業日
 ・ロンドン証券取引所の休業日
 ・ロンドンの銀行の休業日
- d. 解約単位は、販売会社やお申込みのコース等によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- e. 解約請求のお申込みの受付は、原則として午後3時までとします。受付時間を過ぎてからのお申込みは翌営業日受付としてお取扱いします。
- f. 解約時の価額（解約価額）は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額とします。
 信託財産留保額はありませぬ。
- g. 解約価額は、原則として委託会社の毎営業日に算出され、販売会社または委託会社サービスデスクにお問い合わせることにより知ることができます。
- h. 解約にかかる手数料はありません。
- i. 解約代金は、原則として解約請求受付日から起算して5営業日目から、お支払いします。
- j. 委託会社は、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することおよび既に受け付けた解約請求の受付を取り消すことができま

す。解約請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日を解約請求受付日とする解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日にその請求を受け付けたものとして取扱います。

- k. 信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口解約には制限を設ける場合があります。
- l. 受益者が解約の請求をするときは、振替受益権をもって行うものとし、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかる信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請が行われ、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

- a. 基準価額とは、受益権1口当たりの純資産価額(純資産総額を計算日における受益権総口数で除した金額)をいいます。ただし、便宜上1万口当たりに換算した価額で表示されることがあります。
- b. 純資産総額とは、信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。)を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。なお、外貨建資産の円換算については、原則として日本における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算し、外国為替予約に基づく予約為替の評価は、原則として日本における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

<主要投資対象資産の評価方法>

対象	評価方法
マザーファンド 受益証券	原則として、当ファンドの基準価額計算日の基準価額で評価します。
株式	原則として、上場されている取引所における計算日(外国株式の場合は、計算時に知り得る直近の日)の最終相場で評価します。
公社債等	原則として、以下のいずれかの価額で評価します。 a. 日本証券業協会発表の売買参考統計値(平均値) b. 金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(売気配相場を除く) c. 価格情報会社の提供する価額

- c. 基準価額は、原則として委託会社の毎営業日に算出され、販売会社または委託会社サービスデスクに問い合わせることにより知ることができます。

(2)【保管】

該当事項はありません。

(3)【信託期間】

原則として、2017年7月12日から2027年6月23日までとします。ただし、後記「(5)その他 信託の終了(繰上償還)」に該当する場合には、信託を終了させることがあります。

(4)【計算期間】

原則として、毎年6月24日から翌年6月23日までとします。ただし、各計算期間の末日が休業日のときはその翌営業日()を計算期間の末日とし、その翌日より次の計算期間が開始するものとします。()法令により、これと異なる日を計算期間の末日と定めている場合には、法令にしたがいます。

(5)【その他】

信託の終了(繰上償還)

- a. 委託会社は、信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより受益権の総口数が10億口を下ることとなったとき、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- b. 委託会社は、上記a.の事項について、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発します。

- c. 上記b.の書面決議において、受益者(委託会社および信託の信託財産に信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下c.において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- d. 上記b.の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- e. 上記b.からd.までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記b.からd.までの手続きを行うことが困難な場合も同様とします。
- f. 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、信託契約を解約し、信託を終了させます。
- g. 上記f.の規定にかかわらず、監督官庁が信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、信託は、「信託約款の変更」b.の書面決議で否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
- h. 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申立てることができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、「信託約款の変更」の規定にしたがい、新受託会社を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託会社を解任することはできないものとします。
- i. 委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託約款の変更

- a. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することまたは信託と他の信託との併合(投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。)を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、信託約款は「信託約款の変更」に定める以外の方法によって変更することができないものとします。
- b. 委託会社は、上記a.の事項(上記a.の変更事項にあつては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、上記a.の併合事項にあつてはその併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下「重大な約款の変更等」といいます。)について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託約款にかかる知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- c. 上記b.の書面決議において、受益者(委託会社および信託の信託財産に信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下c.において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- d. 上記b.の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- e. 書面決議の効力は、信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
- f. 上記b.からe.までの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- g. 上記a.からf.までの規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあつても、当該併合にかかる一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

関係会社との契約の更改等

委託会社と販売会社との間の募集・販売等の取扱いに関する契約は、当事者の別段の意思表示がない限り、1年ごとに自動更新されます。募集・販売等の取扱いに関する契約は、当事者間の合意により変更することができます。

委託会社と投資顧問会社(運用委託先)との契約の期間は、当事者の別段の意思表示がない限り、原則として、「東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)」の信託期間終了日までとします。

運用報告書

- a. 毎決算時および償還時に、委託会社が、期間中の運用経過のほか、信託財産の内容などを記載した交付運用報告書を作成します。交付運用報告書は、知っている受益者に対して、販売会社から、あらかじめお申し出いただいたご住所にお届けします。

- b. 委託会社は、運用報告書(全体版)を作成し、委託会社のホームページ(<https://www.tokiomarineam.co.jp/>)に掲載します。
- c. 上記b.の規定にかかわらず、受益者から運用報告書(全体版)の交付の請求があった場合は、交付します。

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、原則として電子公告の方法により行い、委託会社のホームページ(<https://www.tokiomarineam.co.jp/>)に掲載します。

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

4【受益者の権利等】

当ファンドの受益者の有する主な権利は以下の通りです。なお、議決権、受益者集会に関する権利は有しません。

収益分配金の請求権

収益分配金は、毎計算期間終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として決算日から起算して5営業日まで)から、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に、お支払いします。ただし、受益者が収益分配金について、上記に規定する支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社より交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。なお、分配金再投資コースの収益分配金は、税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

償還金の請求権

償還金(信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権総口数で除した金額をいいます。以下同じ。)は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として償還日(償還日が休業日の場合には当該償還日の翌営業日)から起算して5営業日まで)から、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)にお支払いします。ただし、受益者が償還金について、上記に規定する支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社より交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

換金(解約)請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、一部解約の実行請求の方法により、換金を請求することができます。詳細は上記「2 換金(解約)手続等」をご参照ください。

買取請求権

一部解約の実行の請求を行ったときは、委託会社が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、信託契約の解約または重大な約款の変更等を行う場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権の買取請求の規定の適用を受けません。

第3【ファンドの経理状況】

- (1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づいて、第2期計算期間（2018年6月26日から2019年6月24日まで）の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

【東京海上・世界資産バランスファンド（年1回決算型）】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第1期 [2018年 6月25日現在]	第2期 [2019年 6月24日現在]
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	65,243,259	2,857,003
親投資信託受益証券	1,161,241,026	1,519,487,335
未収入金	5,074,997	6,307,057
流動資産合計	1,231,559,282	1,528,651,395
資産合計	1,231,559,282	1,528,651,395
負債の部		
流動負債		
未払受託者報酬	117,793	138,871
未払委託者報酬	5,182,875	6,110,624
未払利息	172	6
その他未払費用	58,817	69,359
流動負債合計	5,359,657	6,318,860
負債合計	5,359,657	6,318,860
純資産の部		
元本等		
元本	1 1,244,852,711	1 1,456,262,331
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	2 18,653,086	2 66,070,204
（分配準備積立金）	22,449,180	58,935,005
元本等合計	1,226,199,625	1,522,332,535
純資産合計	1,226,199,625	1,522,332,535
負債純資産合計	1,231,559,282	1,528,651,395

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第1期 自 2017年 7月12日 至 2018年 6月25日	第2期 自 2018年 6月26日 至 2019年 6月24日
営業収益		
受取利息	24	95
有価証券売買等損益	11,436,709	93,041,516
営業収益合計	11,436,685	93,041,611
営業費用		
支払利息	4,720	8,279
受託者報酬	231,495	272,986
委託者報酬	1 10,185,484	1 12,011,815
その他費用	115,572	136,325
営業費用合計	10,537,271	12,429,405
営業利益又は営業損失()	21,973,956	80,612,206
経常利益又は経常損失()	21,973,956	80,612,206
当期純利益又は当期純損失()	21,973,956	80,612,206
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()	341,501	821,351
期首剰余金又は期首欠損金()	-	18,653,086
剰余金増加額又は欠損金減少額	3,069,892	4,932,435
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	684,783
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	3,069,892	4,247,652
剰余金減少額又は欠損金増加額	90,523	-
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	90,523	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	2 -	2 -
期末剰余金又は期末欠損金()	18,653,086	66,070,204

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	第2期	
	自 2018年 6月26日 至 2019年 6月24日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。	
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間末日の取扱い 2019年6月23日が休日のため、当計算期間末日を2019年6月24日としております。このため、当計算期間は、364日となっております。	

(貸借対照表に関する注記)

区 分	第1期	第2期
	[2018年 6月25日現在]	[2019年 6月24日現在]
1. 1 期首元本額	1,000,000,000円	1,244,852,711円
期中追加設定元本額	275,754,235円	257,705,185円
期中一部解約元本額	30,901,524円	46,295,565円
2. 1 計算期間末日における受益権の総数	1,244,852,711口	1,456,262,331口
3. 2 元本の欠損	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は18,653,086円であります。	

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第1期	第2期
自 2017年 7月12日 至 2018年 6月25日	自 2018年 6月26日 至 2019年 6月24日
1. 1 投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託する場合における当該委託に要する費用 当ファンドが投資する東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド（為替ヘッジあり）の純資産総額に対して以下の率を乗じて得た金額 純資産総額が50億円以下の部分 年10,000分の30 純資産総額が50億円超の部分 年10,000分の15	1. 1 投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託する場合における当該委託に要する費用 同左
2. 2 分配金の計算過程 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（22,449,180円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（490,055円）及び分配準備積立金（0円）より、分配対象額は22,939,235円（1万口当たり184.26円）であります。分配を行っておりません。	2. 2 分配金の計算過程 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（30,946,486円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（6,345,263円）、投資信託約款に規定される収益調整金（7,135,199円）及び分配準備積立金（21,643,256円）より、分配対象額は66,070,204円（1万口当たり453.68円）であります。分配を行っておりません。

(金融商品に関する注記)

I. 金融商品の状況に関する事項

区 分	第1期 自 2017年 7月12日 至 2018年 6月25日	第2期 自 2018年 6月26日 至 2019年 6月24日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行なっております。	同左
2. 金融商品の内容及びそのリスク	当ファンドが運用する主な金融商品は「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券であります。当該有価証券には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のリスク管理体制は、担当運用部が自主管理を行うと同時に、担当運用部とは独立した部門において厳格に実施される体制としております。 法令等の遵守状況についてはコンプライアンス部門が、運用リスクの各項目および運用ガイドラインの遵守状況については運用リスク管理部門が、それぞれ適切な運用が行われるよう監視し、担当運用部へのフィードバックおよび所管の委員会への報告・審議を行っています。 これらの内容については、社長をはじめとする関係役員に随時報告が行われるとともに、内部監査部門がこれらの業務全般にわたる運営体制の監査を行うことで、より実効性の高いリスク管理体制を構築しております。	同左

. 金融商品の時価等に関する事項

区 分	第1期 [2018年 6月25日現在]	第2期 [2019年 6月24日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	(1)有価証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。	(1)有価証券 同左

	(2)デリバティブ取引 該当事項はありません。	(2)デリバティブ取引 同左
	(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

第1期(自 2017年7月12日 至 2018年6月25日)

売買目的有価証券

(単位:円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	11,429,561
合計	11,429,561

(注)時価の算定方法については、重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。

第2期(自 2018年6月26日 至 2019年6月24日)

売買目的有価証券

(単位:円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	92,300,999
合計	92,300,999

(注)時価の算定方法については、重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。

(1口当たり情報に関する注記)

第1期 [2018年 6月25日現在]		第2期 [2019年 6月24日現在]	
1口当たり純資産額	0.9850円	1口当たり純資産額	1.0454円
(1万口当たり純資産額	9,850円)	(1万口当たり純資産額	10,454円)

(4)【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

(単位:円)

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託 受益証券	TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)	134,875,431	229,477,058	
	東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)	1,015,347,314	1,060,225,665	
	東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)	192,368,868	229,784,612	
親投資信託受益証券 合計		1,342,591,613	1,519,487,335	
合計		1,342,591,613	1,519,487,335	

第2 信用取引契約残高明細表
該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表
該当事項はありません。

(ご参考)

当ファンドは、「TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)」、「東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)」、「東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)」を主要な投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同ファンドの受益証券です。なお、同ファンドの状況は次のとおりです。
なお、以下に記載した情報は監査の対象ではありません。

「TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)」の状況

(1) 貸借対照表

		[2018年 6月25日現在]	[2019年 6月24日現在]
区分	注記 番号	金額(円)	金額(円)
資産の部			
流動資産			
預金		11,257,162	18,991,961
コール・ローン		169,301,391	248,547,396
株式		9,218,300,493	10,198,655,257
投資証券		361,719,644	71,351,357
派生商品評価勘定		175,615,130	62,494,900
未収配当金		25,422,478	20,124,866
流動資産合計		9,961,616,298	10,620,165,737
資産合計		9,961,616,298	10,620,165,737
負債の部			
流動負債			
派生商品評価勘定			8,073,800
未払解約金		1,110,529	1,513,927
未払利息		448	541
流動負債合計		1,110,977	9,588,268
負債合計		1,110,977	9,588,268
純資産の部			

元本等			
元本	1	6,141,509,481	6,236,524,117
剰余金			
剰余金又は欠損金（ ）		3,818,995,840	4,374,053,352
元本等合計		9,960,505,321	10,610,577,469
純資産合計		9,960,505,321	10,610,577,469
負債純資産合計		9,961,616,298	10,620,165,737

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	自 2018年 6月26日 至 2019年 6月24日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式及び投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所等における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として本書における開示対象ファンドの計算期間末日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には、発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	[2018年 6月25日現在]	[2019年 6月24日現在]
1. 1 本書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額	9,718,465,348円	6,141,509,481円
同期中における追加設定元本額	3,423,754,739円	705,708,401円
同期中における一部解約元本額	7,000,710,606円	610,693,765円
同期末における元本額	6,141,509,481円	6,236,524,117円
元本の内訳*		
東京海上・世界資産バランスファンド（毎月決算型）	93,745,480円	116,503,774円
東京海上・世界資産バランスファンド（年1回決算型）	93,949,499円	134,875,431円

TMA高配当・低ボラティリティ外国株F(為替ヘッジあり)<適格機関投資家限定>	5,085,416,766円	5,119,275,595円
年金高配当・低ボラティリティ外国株F(為替ヘッジあり)<適格機関投資家限定>	868,397,736円	865,869,317円
計	6,141,509,481円	6,236,524,117円
2. 1 本書における開示対象ファンドの計算期間末日における当該親投資信託の受益権の総数	6,141,509,481口	6,236,524,117口

(注) *は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

区 分	自 2017年 7月12日 至 2018年 6月25日	自 2018年 6月26日 至 2019年 6月24日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」(昭和26年法律第198号)第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行なっております。	同左
2. 金融商品の内容及びそのリスク	当ファンドが運用する主な金融商品は「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券及びデリバティブ取引であります。デリバティブ取引には、為替予約取引が含まれております。当該有価証券及びデリバティブ取引には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。	同左

3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>委託会社のリスク管理体制は、担当運用部が自主管理を行うと同時に、担当運用部とは独立した部門において厳格に実施される体制としています。</p> <p>法令等の遵守状況についてはコンプライアンス部門が、運用リスクの各項目および運用ガイドラインの遵守状況については運用リスク管理部門が、それぞれ適切な運用が行われるよう監視し、担当運用部へのフィードバックおよび所管の委員会への報告・審議を行っています。</p> <p>これらの内容については、社長をはじめとする関係役員に随時報告が行われるとともに、内部監査部門がこれらの業務全般にわたる運営体制の監査を行うことで、より実効性の高いリスク管理体制を構築しております。</p>	同左
-------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

・金融商品の時価等に関する事項

区 分	[2018年 6月25日現在]	[2019年 6月24日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	<p>(1)有価証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 （デリバティブ取引等に関する注記）に記載しております。</p> <p>(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。</p>	<p>(1)有価証券 同左</p> <p>(2)デリバティブ取引 同左</p> <p>(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左</p>

3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額又は計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	同左
----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

(有価証券に関する注記)
(自 2017年7月12日 至 2018年6月25日)
売買目的有価証券

(単位:円)

種類	当期間の損益に含まれた評価差額
株式	125,693,915
投資証券	4,276,735
合計	121,417,180

(注1)時価の算定方法については、重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。

(注2)「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から本書における開示対象ファンドの期末までの期間(2018年2月24日から2018年6月25日まで)を指しております。

(自 2018年6月26日 至 2019年6月24日)
売買目的有価証券

(単位:円)

種類	当期間の損益に含まれた評価差額
株式	387,743,465
投資証券	1,546,410
合計	389,289,875

(注1)時価の算定方法については、重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。

(注2)「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から本書における開示対象ファンドの期末までの期間(2019年2月26日から2019年6月24日まで)を指しております。

(デリバティブ取引等に関する注記)
取引の時価等に関する事項
通貨関連
(2018年6月25日現在)

(単位:円)

区分	種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
----	----	------	-------	----	------

市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建	9,650,077,130		9,474,462,000	175,615,130
	米ドル	1,760,870,400		1,751,840,000	9,030,400
	加ドル	2,223,339,860		2,158,356,000	64,983,860
	ユーロ	598,473,340		587,926,000	10,547,340
	英ポンド	825,744,080		813,456,000	12,288,080
	スイスフラン	380,731,320		377,468,000	3,263,320
	スウェーデンクローネ	16,647,020		16,107,000	540,020
	ノルウェークローネ	474,478,500		466,095,000	8,383,500
	デンマーククローネ	165,917,500		162,925,000	2,992,500
	豪ドル	1,266,673,760		1,234,544,000	32,129,760
	ニュージーランドドル	347,869,800		340,470,000	7,399,800
	香港ドル	764,629,550		760,275,000	4,354,550
	シンガポールドル	824,702,000		805,000,000	19,702,000
合計	9,650,077,130		9,474,462,000	175,615,130	

(2019年6月24日現在)

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建	10,155,190,100		10,100,769,000	54,421,100
	米ドル	5,570,137,000		5,518,740,000	51,397,000
	加ドル	706,553,100		706,875,000	321,900
	ユーロ	1,421,185,600		1,418,100,000	3,085,600
	英ポンド	453,931,500		451,473,000	2,458,500
	スイスフラン	687,033,900		693,315,000	6,281,100
	スウェーデンクローネ	200,340,000		201,250,000	910,000
	ノルウェークローネ	53,775,800		54,309,000	533,200
	デンマーククローネ	131,244,000		131,040,000	204,000
	豪ドル	532,705,900		529,731,000	2,974,900
	ニュージーランドドル	14,244,800		14,148,000	96,800
	香港ドル	289,026,100		286,748,000	2,278,100
	シンガポールドル	95,012,400		95,040,000	27,600
合計	10,155,190,100		10,100,769,000	54,421,100	

(注)1.時価の算定方法

(1) 本書における開示対象ファンドの計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

同計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

同計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 同計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物売買相場の仲値をもとに計算しております。
- ・ 同計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2) 本書における開示対象ファンドの計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については同計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

2. 換算において円未満の端数は切り捨てております。

3. 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

(1口当たり情報に関する注記)

[2018年 6月25日現在]		[2019年 6月24日現在]	
1口当たり純資産額	1.6218円	1口当たり純資産額	1.7014円
(1万口当たり純資産額	16,218円)	(1万口当たり純資産額	17,014円)

(3) 附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

銘柄	株式数	評価額		備考
		単価	金額	
米ドル	株	米ドル	米ドル	
NEWMONT GOLDCORP CORPORATION	54,000	37.49	2,024,460.00	
HARRIS CORP	7,000	197.22	1,380,540.00	
HASBRO INC	2,000	107.27	214,540.00	
DARDEN RESTAURANTS INC	15,500	121.23	1,879,065.00	
OMNICOM GROUP	23,000	81.39	1,871,970.00	
Dollar General Corp	14,200	138.78	1,970,676.00	
TJX COMPANIES INC	18,000	52.93	952,740.00	
SYSCO CORP	25,500	70.65	1,801,575.00	
ARCHER-DANIELS-MIDLAND CO	44,000	41.08	1,807,520.00	
COCA-COLA COMPANY	37,000	51.55	1,907,350.00	
HORMEL FOODS CORP	43,000	41.41	1,780,630.00	
MCCORMICK & CO-NON VTG SHRS	7,000	154.41	1,080,870.00	
PEPSICO INC	14,500	133.96	1,942,420.00	
PROCTER & GAMBLE CO	17,500	111.20	1,946,000.00	
ANTHEM INC	3,000	293.76	881,280.00	
UNIVERSAL HEALTH SERVICES INC	3,000	125.31	375,930.00	
JOHNSON & JOHNSON	6,000	142.09	852,540.00	
PFIZER INC	32,000	43.67	1,397,440.00	
COMERICA INC	24,000	70.05	1,681,200.00	
HUNTINGTON BANCSHARES INC	142,000	13.33	1,892,860.00	
JPMORGAN CHASE & CO	7,000	109.44	766,080.00	
KEYCORP	70,000	17.05	1,193,500.00	
PEOPLE'S UNITED FINANCIAL	88,000	16.44	1,446,720.00	
CME GROUP INC	9,500	197.46	1,875,870.00	
AMERICAN FINANCIAL GROUP INC	16,000	103.00	1,648,000.00	
AT&T INC	23,000	32.45	746,350.00	
VERIZON COMMUNICATIONS INC	22,000	57.77	1,270,940.00	
AMEREN CORPORATION	25,000	77.45	1,936,250.00	
CONSOLIDATED EDISON INC	22,000	89.21	1,962,620.00	

DOMINION ENERGY INC	24,500	78.35	1,919,575.00	
DTE ENERGY COMPANY	15,000	131.11	1,966,650.00	
EVERGY INC	32,000	61.24	1,959,680.00	
NEXTERA ENERGY INC	9,500	207.55	1,971,725.00	
WEC ENERGY GROUP INC	23,000	85.42	1,964,660.00	
米ドル小計	918,700		52,270,226.00 (5,614,867,676)	
	銘柄数	34		
	比率	52.9%	55.1%	
加ドル	株	加ドル	加ドル	
BANK OF MONTREAL	7,000	99.94	699,580.00	
BANK OF NOVA SCOTIA	22,000	71.51	1,573,220.00	
CAN IMPERIAL BK OF COMMERCE	23,000	105.10	2,417,300.00	
GREAT-WEST LIFECO INC	53,000	30.32	1,606,960.00	
POWER FINANCIAL CORP	58,000	30.45	1,766,100.00	
加ドル小計	163,000		8,063,160.00 (656,260,592)	
	銘柄数	5		
	比率	6.2%	6.4%	
ユーロ	株	ユーロ	ユーロ	
ALSTOM	40,000	41.40	1,656,000.00	
BRENNTAG AG	21,000	43.26	908,460.00	
THALES SA	6,000	106.70	640,200.00	
HERMES INTERNATIONAL	2,000	630.00	1,260,000.00	
HUGO BOSS AG -ORD	3,000	56.06	168,180.00	
RTL GROUP	2,000	44.86	89,720.00	
COLRUYT SA	9,000	52.60	473,400.00	
KONINKLIJKE AHOLD DELHAIZE NV	26,000	20.97	545,350.00	
AXA	14,000	23.25	325,570.00	
HANNOVER RUECK SE	11,900	141.70	1,686,230.00	
NN GROUP NV	44,000	35.12	1,545,280.00	
DEUTSCHE TELEKOM AG-REG	108,000	15.41	1,664,496.00	
ELISA OYJ	15,500	42.55	659,525.00	
ユーロ小計	302,400		11,622,411.00 (1,420,723,520)	
	銘柄数	13		
	比率	13.4%	13.9%	
英ポンド	株	英ポンド	英ポンド	
ROYAL DUTCH SHELL PLC-A SHS	34,000	25.84	878,560.00	
GLAXOSMITHKLINE PLC	21,000	15.76	331,044.00	
DIRECT LINE INSURANCE GROUP	427,000	3.23	1,381,345.00	
LEGAL & GENERAL GROUP PLC	290,000	2.66	772,560.00	

英ポンド小計	772,000		3,363,509.00 (460,598,922)	
	銘柄数	4		
	比率	4.3%	4.5%	
スイスフラン	株	スイスフラン	スイスフラン	
BARRY CALLEBAUT AG-REG	900	1,941.00	1,746,900.00	
NESTLE SA-REGISTERED	13,000	101.52	1,319,760.00	
ROCHE HOLDING AG-GENUSSS	2,300	277.15	637,445.00	
SWISS RE AG	8,000	100.00	800,000.00	
SWISSCOM AG-REG	3,700	493.10	1,824,470.00	
スイスフラン小計	27,900		6,328,575.00 (696,269,821)	
	銘柄数	5		
	比率	6.6%	6.8%	
スウェーデンクローネ	株	スウェーデン クローネ	スウェーデン クローネ	
ICA GRUPPEN AB	15,000	400.50	6,007,500.00	
TELIA COMPANY AB	289,000	41.68	12,045,520.00	
スウェーデンクローネ小計	304,000		18,053,020.00 (207,609,730)	
	銘柄数	2		
	比率	2.0%	2.0%	
ノルウェークローネ	株	ノルウェー クローネ	ノルウェー クローネ	
MOWI ASA	21,000	203.80	4,279,800.00	
ノルウェークローネ小計	21,000		4,279,800.00 (54,139,470)	
	銘柄数	1		
	比率	0.5%	0.5%	
デンマーククローネ	株	デンマーク クローネ	デンマーク クローネ	
TRYG A/S	37,000	217.60	8,051,200.00	
デンマーククローネ小計	37,000		8,051,200.00 (131,798,144)	
	銘柄数	1		
	比率	1.2%	1.3%	
豪ドル	株	豪ドル	豪ドル	
JAMES HARDIE INDUSTRIES-CDI	21,000	19.08	400,680.00	
ORICA LTD	35,000	20.69	724,150.00	
COCA-COLA AMATIL LIMITED	234,000	10.26	2,400,840.00	
SONIC HEALTHCARE LTD	102,000	27.64	2,819,280.00	
QBE INSURANCE GROUP LIMITED	75,000	12.14	910,500.00	
豪ドル小計	467,000		7,255,450.00 (542,127,224)	
	銘柄数	5		
	比率	5.1%	5.3%	

ニュージーランドドル MERIDIAN ENERGY LTD	株 62,000	ニュージーランド ドル 4.73	ニュージーランド ドル 293,260.00	
ニュージーランドドル小計	62,000		293,260.00 (20,780,403)	
	銘柄数	1		
	比率	0.2%	0.2%	
香港ドル CLP HOLDINGS LIMITED	株 71,000	香港ドル 86.40	香港ドル 6,134,400.00	
HONG KONG & CHINA GAS	854,700	17.50	14,957,250.00	
香港ドル小計	925,700		21,091,650.00 (290,010,187)	
	銘柄数	2		
	比率	2.7%	2.8%	
シンガポールドル SINGAPORE EXCHANGE LTD	株 164,000	シンガポールドル 7.95	シンガポールドル 1,303,800.00	
シンガポールドル小計	164,000		1,303,800.00 (103,469,568)	
	銘柄数	1		
	比率	1.0%	1.0%	
合計	株 4,164,700		円 10,198,655,257 (10,198,655,257)	

(注1)通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

(注3)比率は左より組入時価の純資産に対する比率、および各小計欄の合計金額に対する比率であります。

(2)株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資証券	加ドル	H&R REAL ESTATE INV-REIT UTS	38,000	加ドル 876,660.00	
		加ドル小計	38,000	876,660.00 (71,351,357)	
		銘柄数	1		
		比率	0.7%	100.0%	
投資証券合計				円 71,351,357 (71,351,357)	
合計				円 71,351,357 (71,351,357)	

(注1)通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

(注3)比率は左より組入時価の純資産に対する比率、および各小計欄の合計金額に対する比率であります。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表（デリバティブ取引等に関する注記）」に記載しております。

「東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド（為替ヘッジあり）」の状況

(1) 貸借対照表

区 分	注記 番号	[2018年 6月25日現在]	[2019年 6月24日現在]
		金額（円）	金額（円）
資産の部			
流動資産			
預金		2,858,441	3,108,334
コール・ローン		50,958,528	67,700,490
国債証券		753,523,907	479,808,904
特殊債券		108,535,677	92,195,229
社債券		759,063,568	1,308,480,152
派生商品評価勘定		23,842,855	5,507,418
未収入金			19,034,031
未収利息		10,870,557	12,925,333
前払費用		1,628,260	2,425,928
流動資産合計		1,711,281,793	1,991,185,819
資産合計		1,711,281,793	1,991,185,819
負債の部			
流動負債			
派生商品評価勘定			7,857,749
未払金			422,832
未払解約金		6,247,151	6,981,175
未払利息		135	147
流動負債合計		6,247,286	15,261,903
負債合計		6,247,286	15,261,903
純資産の部			
元本等			
元本	1	1,735,357,260	1,892,357,708
剰余金			
剰余金又は欠損金（ ）	2	30,322,753	83,566,208
元本等合計		1,705,034,507	1,975,923,916
純資産合計		1,705,034,507	1,975,923,916
負債純資産合計		1,711,281,793	1,991,185,819

(2) 注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

区 分	自 2018年 6月26日 至 2019年 6月24日

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、特殊債券及び社債券</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(但し、売気配相場は使用しない)、又は価格情報会社の提供する価額で評価しております。</p>
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として本書における開示対象ファンドの計算期間末日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には、発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

区 分	[2018年 6月25日現在]	[2019年 6月24日現在]
<p>1. 1 本書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額</p> <p>1,400,000,000円</p> <p>同期中における追加設定元本額</p> <p>408,878,480円</p> <p>同期中における一部解約元本額</p> <p>73,521,220円</p> <p>同期末における元本額</p> <p>1,735,357,260円</p> <p>元本の内訳*</p> <p>東京海上・世界資産バランスファンド(毎月決算型)</p> <p>866,735,902円</p> <p>東京海上・世界資産バランスファンド(年1回決算型)</p> <p>868,621,358円</p> <p>計</p> <p>1,735,357,260円</p>	<p>1,735,357,260円</p> <p>305,175,253円</p> <p>148,174,805円</p> <p>1,892,357,708円</p> <p>877,010,394円</p> <p>1,015,347,314円</p> <p>1,892,357,708円</p>	<p>1,735,357,260円</p> <p>305,175,253円</p> <p>148,174,805円</p> <p>1,892,357,708円</p> <p>877,010,394円</p> <p>1,015,347,314円</p> <p>1,892,357,708円</p>
2. 1 本書における開示対象ファンドの計算期間末日における当該親投資信託の受益権の総数	1,735,357,260口	1,892,357,708口
3. 2 元本の欠損	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は30,322,753円であります。	

(注)*は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

区 分	自 2017年 7月12日 至 2018年 6月25日	自 2018年 6月26日 至 2019年 6月24日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行なっております。	同左
2. 金融商品の内容及びそのリスク	当ファンドが運用する主な金融商品は「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券及びデリバティブ取引であります。デリバティブ取引には、為替予約取引が含まれております。当該有価証券及びデリバティブ取引には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のリスク管理体制は、担当運用部が自主管理を行うと同時に、担当運用部とは独立した部門において厳格に実施される体制としております。 法令等の遵守状況についてはコンプライアンス部門が、運用リスクの各項目および運用ガイドラインの遵守状況については運用リスク管理部門が、それぞれ適切な運用が行われるよう監視し、担当運用部へのフィードバックおよび所管の委員会への報告・審議を行っています。 これらの内容については、社長をはじめとする関係役員に随時報告が行われるとともに、内部監査部門がこれらの業務全般にわたる運営体制の監査を行うことで、より実効性の高いリスク管理体制を構築しております。	同左

・金融商品の時価等に関する事項

区 分	[2018年 6月25日現在]	[2019年 6月24日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	時価で計上しているため、その差額はありませぬ。	同左
2. 時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	(1)有価証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。	(1)有価証券 同左

	(2)デリバティブ取引 （デリバティブ取引等に関する注記）に記載しております。	(2)デリバティブ取引 同左
	(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額又は計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	同左

（有価証券に関する注記）

（自 2017年7月12日 至 2018年6月25日）

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	当期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	10,546,001
特殊債券	7,578,976
社債券	30,670,487
合計	48,795,464

（注1）時価の算定方法については、重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。

（注2）「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から本書における開示対象ファンドの期末までの期間（2017年7月12日から2018年6月25日まで）を指しております。

（自 2018年6月26日 至 2019年6月24日）

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	当期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	29,626,229
特殊債券	5,529,149
社債券	54,073,147
合計	89,228,525

(注1)時価の算定方法については、重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。

(注2)「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から本書における開示対象ファンドの期末までの期間(2018年6月26日から2019年6月24日まで)を指しております。

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

通貨関連

(2018年6月25日現在)

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建	1,658,487,589		1,634,644,734	23,842,855
	米ドル	757,200,598		751,334,232	5,866,366
	ユーロ	272,986,612		268,474,410	4,512,202
	英ポンド	172,523,520		169,705,863	2,817,657
	スウェーデンクローネ	129,718,120		125,562,105	4,156,015
	ノルウェークローネ	191,983,062		188,894,476	3,088,586
	シンガポールドル	134,075,677		130,673,648	3,402,029
	合計	1,658,487,589		1,634,644,734	23,842,855

(2019年6月24日現在)

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建	1,887,893,874		1,890,244,205	2,350,331
	米ドル	742,525,885		737,018,467	5,507,418
	ユーロ	758,579,444		762,409,053	3,829,609
	英ポンド	194,690,257		196,397,150	1,706,893
	スウェーデンクローネ	110,158,681		110,855,626	696,945
	ノルウェークローネ	81,939,607		83,563,909	1,624,302
	合計	1,887,893,874		1,890,244,205	2,350,331

(注)1.時価の算定方法

(1) 本書における開示対象ファンドの計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

同計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

同計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 同計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物売買相場の仲値をもとに計算しております。

- ・ 同計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2) 本書における開示対象ファンドの計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については同計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

2. 換算において円未満の端数は切り捨てております。

3. 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

(1口当たり情報に関する注記)

[2018年 6月25日現在]		[2019年 6月24日現在]	
1口当たり純資産額	0.9825円	1口当たり純資産額	1.0442円
(1万口当たり純資産額	9,825円)	(1万口当たり純資産額	10,442円)

(3) 附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考	
国債証券	米ドル	ADGB 4 1/8 10/11/47	200,000	米ドル 220,200.00		
		COLOM 3 7/8 04/25/27	550,000	576,675.00		
		KUWIB 3 1/2 03/20/27	200,000	212,820.00		
		QATAR 4 03/14/29	400,000	426,680.00		
		SOAF 5 7/8 06/22/30	300,000	325,200.00		
		URUGUA 4 3/8 10/27/27	430,000	463,755.00		
		米ドル小計		2,080,000	2,225,330.00 (239,044,948)	
			銘柄数	6		
			比率	12.1%	12.7%	
		ユーロ	FRTR 2 05/25/48	300,000	ユーロ 379,170.00	
		ユーロ小計		300,000	379,170.00 (46,349,740)	
			銘柄数	1		
			比率	2.3%	2.5%	
		スウェーデン クローネ	SGB 2 1/4 06/01/32 #1056	4,000,000	スウェーデン クローネ 4,998,800.00	
			SGB 3 1/2 03/30/39	2,900,000	4,540,414.00	
		スウェーデン クローネ小計		6,900,000	9,539,214.00 (109,700,961)	
			銘柄数	2		
			比率	5.6%	5.8%	
		ノルウェー クローネ	NGB 1 3/4 02/17/27	1,000,000	ノルウェー クローネ 1,028,400.00	
			NGB 1 3/4 09/06/29	5,500,000	5,668,300.00	
		ノルウェー クローネ小計		6,500,000	6,696,700.00 (84,713,255)	
			銘柄数	2		
			比率	4.3%	4.5%	
国債証券合計				円 479,808,904 (479,808,904)		

特殊債券	米ドル	BNCE 4 3/8 10/14/25	300,000	米ドル 304,875.00	
		EXIMBK 3 3/8 08/05/26	250,000	249,175.00	
		MIVIVI 3 1/2 01/31/23	300,000	304,218.75	
	米ドル小計	850,000	858,268.75 (92,195,229)		
	銘柄数	3			
比率	4.7%	4.9%			
特殊債券合計				円 92,195,229 (92,195,229)	
社債券	米ドル	BMETR 4 3/4 02/04/24	250,000	米ドル 269,140.62	
		CDEL 3 5/8 08/01/27	200,000	205,625.00	
		EMTESA 5 1/8 05/02/49	360,000	392,902.20	
		INRCIN 3.835 12/13/27	300,000	303,150.00	
		KZOKZ 4 3/4 04/19/27	240,000	257,760.00	
		KZTGKZ 4 3/8 09/26/27	210,000	212,499.00	
		MUBAUH 3 04/19/24	200,000	202,500.00	
		PEMEX 4 1/2 01/23/26	200,000	181,960.00	
		PERTIJ 6 05/03/42	290,000	329,875.00	
		PETRPE 4 3/4 06/19/32	300,000	324,330.00	
		PLBIII 4 7/8 10/01/24	200,000	213,250.00	
		PLNIJ 4 1/8 05/15/27	300,000	304,410.00	
		SINOPE 3 5/8 04/12/27	200,000	206,820.00	
	YANTZE 3.15 06/02/26	350,000	351,085.00		
	米ドル小計	3,600,000	3,755,306.82 (403,395,058)		
	銘柄数	14			
	比率	20.4%	21.5%		
	ユーロ	ユーロ	ABNAV 1 04/16/25	130,000	ユーロ 136,422.00
			ACAFP 2 3/8 11/27/20	100,000	103,700.00
			AGN 1 1/4 06/01/24	100,000	101,440.00
ANNFND 1.65 07/12/24			200,000	204,380.00	
ANNGR 1 1/4 12/06/24			100,000	104,770.00	
ASML 1 5/8 05/28/27			150,000	163,320.00	
BAC 1.379 02/07/25			200,000	208,480.00	
BACR 1 7/8 12/08/23			100,000	103,800.00	
BASGR 0 7/8 11/15/27			120,000	125,544.00	
BBVASM 0 3/4 09/11/22			100,000	101,585.00	
BHP 3 1/8 04/29/33			100,000	125,640.00	
BNP 1 5/8 02/23/26			130,000	141,804.00	
BPLN 1.573 02/16/27			190,000	204,744.00	

BRK 1 1/8 03/16/27	130,000	135,928.00	
C 1 3/4 01/28/25	190,000	203,699.00	
COLSM 2 04/17/26	100,000	106,340.00	
DT 4 7/8 04/22/25	160,000	200,560.00	
ECLEAR 1 1/8 12/07/26	100,000	105,530.00	
FIS 1 1/2 05/21/27	100,000	103,910.00	
GE 0 7/8 05/17/25	100,000	99,410.00	
GLENLN 1 3/4 03/17/25	100,000	104,450.00	
GS 2 11/01/28	100,000	107,560.00	
GYCGR 1 3/8 08/03/26	100,000	102,390.00	
HSBC 0 7/8 09/06/24	100,000	102,210.00	
HSBC 2 1/2 03/15/27	100,000	113,640.00	
IBESM 1 03/07/24	100,000	104,210.00	
JPM 1.638 05/18/28	170,000	181,255.70	
LHNVX 1 3/4 08/29/29	100,000	102,750.00	
LLOYDS 1 11/09/23	100,000	101,090.00	
NWIDE 1 1/2 03/08/26	100,000	101,660.00	
PEP 0 3/4 03/18/27	100,000	102,840.00	
PRIFII 1 3/4 03/15/28	125,000	132,962.50	
RABOBK 4 01/11/22	100,000	110,700.00	
RDSALN 1 7/8 09/15/25	180,000	201,168.00	
SANUK 1 1/8 03/10/25	100,000	103,810.00	
SAPGR 1 3/4 02/22/27	100,000	111,620.00	
SEGPLP 1 1/2 11/20/25	120,000	123,300.00	
SKYLN 2 1/4 11/17/25	120,000	134,256.00	
SVEGNO 0 1/2 11/29/22	120,000	121,572.00	
T 2.35 09/05/29	100,000	110,660.00	
UBS 1 1/4 09/01/26	200,000	209,620.00	
VESTNL 2 07/10/26	100,000	107,710.00	
VOD 2.2 08/25/26	120,000	133,476.00	
VZ 1 7/8 10/26/29	100,000	109,850.00	
WFC 1 5/8 06/02/25	100,000	107,100.00	
一口小計	5,455,000	5,822,866.20 (711,787,164)	
銘柄数	45		
比率	36.0%	37.9%	

英ポンド	ABIBB 2.85 05/25/37	110,000	英ポンド 108,922.00
	ABNANV 1 3/8 06/07/22	100,000	100,250.00
	BMW 0 7/8 08/16/22	40,000	39,352.00
	BNP 1 1/8 08/16/22	100,000	99,620.00
	CS 2 1/8 09/12/25	100,000	99,200.00
	DAIGR 1 1/2 01/13/22	100,000	100,240.00
	ENELIM 5 5/8 08/14/24	50,000	58,580.00
	FCABNK 1 5/8 09/29/21	100,000	99,180.00
	IGYGY 5 5/8 12/06/23	40,000	47,028.00
	INTNED 5 3/8 04/15/21	100,000	107,467.00
	KPN 5 3/4 09/17/29	70,000	79,450.00
	SHBASS 2 3/8 01/18/22	100,000	102,920.00
	TELEFO 5.289 12/09/22	100,000	112,420.00
	TELEFO 5.445 10/08/29	50,000	63,020.00
	VW 1 1/2 04/12/21	90,000	89,793.00
	VW 3 3/8 11/16/26	100,000	104,110.00
	英ポンド小計	1,350,000	1,411,552.00 (193,297,930)
銘柄数	16		
比率	9.8%	10.3%	
社債券合計		円 1,308,480,152 (1,308,480,152)	
合計		円 1,880,484,285 (1,880,484,285)	

(注1)通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

(注3)比率は左より組入時価の純資産に対する比率、および各小計欄の合計金額に対する比率であります。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引等に関する注記)」に記載しております。

「東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)」の状況

(1) 貸借対照表

区 分	注記 番号	[2018年 6月25日現在]	[2019年 6月24日現在]
		金額(円)	金額(円)
資産の部			
流動資産			
預金		1,414,905	868,243
コール・ローン		2,006,821	7,940,497
投資証券		305,695,691	416,808,551

派生商品評価勘定		1,692,572	3,097,750
未収入金		2,408	
未収配当金		887,421	1,072,727
流動資産合計		311,699,818	429,787,768
資産合計		311,699,818	429,787,768
負債の部			
流動負債			
派生商品評価勘定			585
未払解約金		1,127,594	1,526,806
未払利息		5	17
流動負債合計		1,127,599	1,527,408
負債合計		1,127,599	1,527,408
純資産の部			
元本等			
元本	1	297,650,982	358,529,949
剰余金			
剰余金又は欠損金()		12,921,237	69,730,411
元本等合計		310,572,219	428,260,360
純資産合計		310,572,219	428,260,360
負債純資産合計		311,699,818	429,787,768

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	自 2018年 6月26日 至 2019年 6月24日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所等における最終相場(最終相場のないものについては、それに準ずる価額)、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として本書における開示対象ファンドの計算期間末日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には、発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。

3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>
----------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

（貸借対照表に関する注記）

区 分	[2018年 6月25日現在]	[2019年 6月24日現在]
1. 1 本書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額 同期中における追加設定元本額 同期中における一部解約元本額 同期末における元本額 元本の内訳* 東京海上・世界資産バランスファンド（毎月決算型） 東京海上・世界資産バランスファンド（年1回決算型） 計	300,000,000円 97,098,921円 99,447,939円 297,650,982円 148,663,781円 148,987,201円 297,650,982円	297,650,982円 114,969,643円 54,090,676円 358,529,949円 166,161,081円 192,368,868円 358,529,949円
2. 1 本書における開示対象ファンドの計算期間末日における当該親投資信託の受益権の総数	297,650,982口	358,529,949口

（注）*は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

1. 金融商品の状況に関する事項

区 分	自 2017年 7月12日 至 2018年 6月25日	自 2018年 6月26日 至 2019年 6月24日
1. 金融商品に対する取組方針	<p>当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行なっております。</p>	同左

2. 金融商品の内容及びそのリスク	当ファンドが運用する主な金融商品は「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券及びデリバティブ取引であります。デリバティブ取引には、為替予約取引が含まれております。当該有価証券及びデリバティブ取引には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>委託会社のリスク管理体制は、担当運用部が自主管理を行うと同時に、担当運用部とは独立した部門において厳格に実施される体制としています。</p> <p>法令等の遵守状況についてはコンプライアンス部門が、運用リスクの各項目および運用ガイドラインの遵守状況については運用リスク管理部門が、それぞれ適切な運用が行われるよう監視し、担当運用部へのフィードバックおよび所管の委員会への報告・審議を行っています。</p> <p>これらの内容については、社長をはじめとする関係役員に随時報告が行われるとともに、内部監査部門がこれらの業務全般にわたる運営体制の監査を行うことで、より実効性の高いリスク管理体制を構築しております。</p>	同左

・金融商品の時価等に関する事項

区 分	[2018年 6月25日現在]	[2019年 6月24日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	<p>(1)有価証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 （デリバティブ取引等に関する注記）に記載しております。</p>	<p>(1)有価証券 同左</p> <p>(2)デリバティブ取引 同左</p>

	(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額又は計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	同左

(有価証券に関する注記)

(自 2017年7月12日 至 2018年6月25日)

売買目的有価証券

(単位：円)

種類	当期間の損益に含まれた評価差額
投資証券	9,539,537
合計	9,539,537

(注1)時価の算定方法については、重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。

(注2)「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から本書における開示対象ファンドの期末までの期間(2017年7月12日から2018年6月25日まで)を指しております。

(自 2018年6月26日 至 2019年6月24日)

売買目的有価証券

(単位：円)

種類	当期間の損益に含まれた評価差額
投資証券	42,567,125
合計	42,567,125

(注1)時価の算定方法については、重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。

(注2)「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から本書における開示対象ファンドの期末までの期間(2018年6月26日から2019年6月24日まで)を指しております。

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

通貨関連

(2018年6月25日現在)

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建	299,078,977		297,386,405	1,692,572
	米ドル	217,337,196		217,217,820	119,376
	ユーロ	19,135,799		18,979,785	156,014
	豪ドル	37,996,894		36,892,040	1,104,854
	香港ドル	9,897,025		9,883,680	13,345
	シンガポールドル	14,712,063		14,413,080	298,983
	合計	299,078,977		297,386,405	1,692,572

(2019年6月24日現在)

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建	411,921,725		408,824,560	3,097,165
	米ドル	314,422,598		311,902,980	2,519,618
	ユーロ	9,045,175		9,045,760	585
	豪ドル	46,174,910		45,673,560	501,350
	香港ドル	11,998,170		11,936,400	61,770
	シンガポールドル	30,280,872		30,265,860	15,012
	合計	411,921,725		408,824,560	3,097,165

(注)1.時価の算定方法

(1) 本書における開示対象ファンドの計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

同計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

同計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 同計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物売買相場の仲値をもとに計算しております。

- ・ 同計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2) 本書における開示対象ファンドの計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については同計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

2.換算において円未満の端数は切り捨てております。

3.契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

(1口当たり情報に関する注記)

[2018年 6月25日現在]		[2019年 6月24日現在]	
1口当たり純資産額	1.0434円	1口当たり純資産額	1.1945円
(1万口当たり純資産額)	10,434円)	(1万口当たり純資産額)	11,945円)

(3) 附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資証券	米ドル	ALEXANDRIA REAL ESTATE EQUITIES INC	1,330	米ドル 193,222.40	
		AMERICAN TOWER CORP	1,742	374,843.56	
		AVALONBAY COMMUNITIES INC	1,373	285,309.40	
		CAMDEN PROPERTY TRUST	1,769	187,814.73	
		CROWN CASTLE INTL CORP	718	97,490.04	
		DIGITAL REALTY TRUST INC	786	96,795.90	
		EQUINIX INC	72	36,582.48	
		EQUITY RESIDENTIAL	3,156	246,262.68	
		FEDERAL REALTY INVS TRUST	1,341	179,452.62	
		MID-AMERICA APARTMENT COMMUNITIES INC	262	31,201.58	
		PROLOGIS INC	4,275	347,685.75	
		PUBLIC STORAGE	1,202	289,081.00	
		REALTY INCOME CORP	2,191	158,299.75	
		SIMON PROPERTY GROUP INC	2,110	346,229.90	
		WELLTOWER INC	966	80,805.90	
米ドル小計			23,293	2,951,077.69 (317,004,765)	
		銘柄数	15		
		比率	74.0%	76.1%	
ユーロ		GECINA SA	557	ユーロ 75,306.40	
ユーロ小計			557	75,306.40 (9,205,454)	
		銘柄数	1		
		比率	2.1%	2.2%	
豪ドル		DEXUS	19,391	豪ドル 261,390.68	
		GPT GROUP	43,214	270,951.78	
		SCENTRE GROUP	26,593	102,383.05	
豪ドル小計			89,198	634,725.51 (47,426,690)	
		銘柄数	3		
		比率	11.1%	11.4%	
香港ドル		LINK REIT	9,000	香港ドル 864,900.00	
香港ドル小計			9,000	864,900.00 (11,892,375)	
		銘柄数	1		
		比率	2.8%	2.9%	

シンガポールドル	ASCENDAS REAL ESTATE INVESTMENT TRUST	94,200	シンガポールドル 286,368.00
	CAPITALAND MALL TRUST	42,100	107,776.00
シンガポールドル小計		136,300	394,144.00 (31,279,267)
	銘柄数	2	
	比率	7.3%	7.5%
投資証券合計			円 416,808,551 (416,808,551)
合計			円 416,808,551 (416,808,551)

(注1)通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

(注3)比率は左より組入時価の純資産に対する比率、および各小計欄の合計金額に対する比率であります。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引等に関する注記)」に記載しております。

- (1) 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)並びに同規則第38条の3及び第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。
なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づいて、当中間計算期間(2019年6月25日から2019年12月24日まで)の中間財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により中間監査を受けております。

中間財務諸表

【東京海上・世界資産バランスファンド（年1回決算型）】

(1)【中間貸借対照表】

(単位：円)

	前期 2019年 6月24日現在	当中間計算期間末 2019年12月24日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	2,857,003	-
親投資信託受益証券	1,519,487,335	1,499,856,925
未収入金	6,307,057	9,959,940
流動資産合計	1,528,651,395	1,509,816,865
資産合計		
	1,528,651,395	1,509,816,865
負債の部		
流動負債		
未払解約金	-	2,529,151
未払受託者報酬	138,871	163,319
未払委託者報酬	6,110,624	7,185,900
未払利息	6	-
その他未払費用	69,359	81,570
流動負債合計	6,318,860	9,959,940
負債合計		
	6,318,860	9,959,940
純資産の部		
元本等		
元本	1,456,262,331	1,411,643,050
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	66,070,204	88,213,875
（分配準備積立金）	58,935,005	49,589,864
元本等合計	1,522,332,535	1,499,856,925
純資産合計		
	1,522,332,535	1,499,856,925
負債純資産合計		
	1,528,651,395	1,509,816,865

(2)【中間損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	前中間計算期間 自 2018年 6月26日 至 2018年12月25日	当中間計算期間 自 2019年 6月25日 至 2019年12月24日
営業収益		
受取利息	95	1
有価証券売買等損益	32,260,973	31,834,626
営業収益合計	32,260,878	31,834,627
営業費用		
支払利息	6,668	517
受託者報酬	134,115	163,319
委託者報酬	1 5,901,191	1 7,185,900
その他費用	66,966	81,570
営業費用合計	6,108,940	7,431,306
営業利益又は営業損失()	38,369,818	24,403,321
経常利益又は経常損失()	38,369,818	24,403,321
中間純利益又は中間純損失()	38,369,818	24,403,321
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額()	134,828	2,836,155
期首剰余金又は期首欠損金()	18,653,086	66,070,204
剰余金増加額又は欠損金減少額	189,237	12,026,264
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	189,237	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	12,026,264
剰余金減少額又は欠損金増加額	464,399	11,449,759
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	11,449,759
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	464,399	-
中間剰余金又は中間欠損金()	57,163,238	88,213,875

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	当中間計算期間 自 2019年 6月25日 至 2019年12月24日
有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準 価額に基づいて評価しております。

(中間貸借対照表に関する注記)

区 分	前期 2019年 6月24日現在	当中間計算期間末 2019年12月24日現在
1. 1 期首元本額	1,244,852,711円	1,456,262,331円
期中追加設定元本額	257,705,185円	202,983,020円
期中一部解約元本額	46,295,565円	247,602,301円
2. 1 中間計算期間末日における受益権 の総数	1,456,262,331口	1,411,643,050口

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

前中間計算期間 自 2018年 6月26日 至 2018年12月25日	当中間計算期間 自 2019年 6月25日 至 2019年12月24日
1 投資信託財産の運用の指図に係る権限の 全部又は一部を委託する場合における当 該委託に要する費用 当ファンドが投資する東京海上・外貨建て投資 適格債券マザーファンド（為替ヘッジあり）の 純資産総額に対して以下の率を乗じて得た金額 純資産総額が50億円以下の部分 年10,000分の30 純資産総額が50億円超の部分 年10,000分の15	1 投資信託財産の運用の指図に係る権限の 全部又は一部を委託する場合における当 該委託に要する費用 同左

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

区 分	前期 2019年 6月24日現在	当中間計算期間末 2019年12月24日現在
1. 中間貸借対照表計上額、 時価及びこれらの差額	時価で計上しているため、その 差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法並びに有価 証券及びデリバティブ取引 に関する事項	(1)有価証券 （重要な会計方針に係る事項 に関する注記）に記載して おります。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。	(1)有価証券 同左 (2)デリバティブ取引 同左

	(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(1口当たり情報に関する注記)

前期 2019年 6月24日現在		当中間計算期間末 2019年12月24日現在	
1口当たり純資産額	1.0454円	1口当たり純資産額	1.0625円
(1万口当たり純資産額	10,454円)	(1万口当たり純資産額	10,625円)

(ご参考)

当ファンドは、「TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)」、「東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)」、「東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)」を主要な投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同ファンドの受益証券です。なお、同ファンドの状況は次のとおりです。
なお、以下に記載した情報は監査の対象ではありません。

「TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)」の状況

(1) 貸借対照表

		2019年 6月24日現在	2019年12月24日現在
区 分	注記 番号	金額(円)	金額(円)
資産の部			
流動資産			
預金		18,991,961	10,927,778
コール・ローン		248,547,396	94,760,390
株式		10,198,655,257	8,268,917,344
投資証券		71,351,357	201,244,065
派生商品評価勘定		62,494,900	2,415,633
未収配当金		20,124,866	10,179,845
流動資産合計		10,620,165,737	8,588,445,055
資産合計		10,620,165,737	8,588,445,055
負債の部			
流動負債			
派生商品評価勘定		8,073,800	67,636,937

未払金			436,247,365
未払解約金		1,513,927	1,589,009
未払利息		541	184
流動負債合計		9,588,268	505,473,495
負債合計		9,588,268	505,473,495
純資産の部			
元本等			
元本	1	6,236,524,117	4,469,904,528
剰余金			
剰余金又は欠損金()		4,374,053,352	3,613,067,032
元本等合計		10,610,577,469	8,082,971,560
純資産合計		10,610,577,469	8,082,971,560
負債純資産合計		10,620,165,737	8,588,445,055

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	自 2019年 6月25日 至 2019年12月24日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式及び投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所等における最終相場(最終相場のないものについては、それに準ずる価額)、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には、発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	2019年 6月24日現在	2019年12月24日現在
1. 1 本書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額	6,141,509,481円	6,236,524,117円
同期中における追加設定元本額	705,708,401円	120,199,865円
同期中における一部解約元本額	610,693,765円	1,886,819,454円

同中間期末における元本額	6,236,524,117円	4,469,904,528円
元本の内訳*		
東京海上・世界資産バランスファンド(毎月決算型)	116,503,774円	116,437,881円
東京海上・世界資産バランスファンド(年1回決算型)	134,875,431円	126,016,562円
TMA高配当・低ボラティリティ外国株F(為替ヘッジあり)<適格機関投資家限定>	5,119,275,595円	3,279,134,600円
年金高配当・低ボラティリティ外国株F(為替ヘッジあり)<適格機関投資家限定>	865,869,317円	864,234,314円
東京海上・安定収益追求型マルチアセットファンド<適格機関投資家限定>	円	84,025,314円
年金安定収益追求型マルチアセットファンド<適格機関投資家限定>	円	55,857円
計	6,236,524,117円	4,469,904,528円
2. 1 本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日における当該親投資信託の受益権の総数	6,236,524,117口	4,469,904,528口

(注)*は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

区 分	2019年 6月24日現在	2019年12月24日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	<p>(1)有価証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 (デリバティブ取引等に関する注記)に記載しております。</p> <p>(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。</p>	<p>(1)有価証券 同左</p> <p>(2)デリバティブ取引 同左</p> <p>(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左</p>

3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額又は計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	同左
----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

(デリバティブ取引等に関する注記)
取引の時価等に関する事項

通貨関連

(2019年6月24日現在)

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建	10,155,190,100		10,100,769,000	54,421,100
	米ドル	5,570,137,000		5,518,740,000	51,397,000
	加ドル	706,553,100		706,875,000	321,900
	ユーロ	1,421,185,600		1,418,100,000	3,085,600
	英ポンド	453,931,500		451,473,000	2,458,500
	スイスフラン	687,033,900		693,315,000	6,281,100
	スウェーデンクローネ	200,340,000		201,250,000	910,000
	ノルウェークローネ	53,775,800		54,309,000	533,200
	デンマーククローネ	131,244,000		131,040,000	204,000
	豪ドル	532,705,900		529,731,000	2,974,900
	ニュージーランドドル	14,244,800		14,148,000	96,800
	香港ドル	289,026,100		286,748,000	2,278,100
	シンガポールドル	95,012,400		95,040,000	27,600
合計		10,155,190,100		10,100,769,000	54,421,100

(2019年12月24日現在)

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		

市場取引 以外の取引	為替予約取引			
	買建	428,097,976	428,116,182	18,206
	米ドル	261,869,084	261,869,084	
	加ドル	37,403,440	37,401,641	1,799
	ユーロ	64,889,872	64,901,527	11,655
	英ポンド	23,047,949	23,051,902	3,953
	スイスフラン	22,459,907	22,463,897	3,990
	スウェーデンクローネ	9,952,002	9,953,717	1,715
	ノルウェークローネ	2,264,412	2,263,486	926
	デンマーククローネ	6,211,310	6,210,928	382
	売建	8,309,996,490	8,375,236,000	65,239,510
	米ドル	4,696,665,920	4,729,226,000	32,560,080
	加ドル	615,013,400	623,025,000	8,011,600
	ユーロ	1,230,941,990	1,238,178,000	7,236,010
	英ポンド	356,288,100	353,900,000	2,388,100
	スイスフラン	552,853,620	557,600,000	4,746,380
	スウェーデンクローネ	158,090,960	160,218,000	2,127,040
	ノルウェークローネ	31,878,360	32,940,000	1,061,640
	デンマーククローネ	106,533,240	107,250,000	716,760
	豪ドル	384,342,400	393,380,000	9,037,600
	ニュージーランドドル	14,185,800	14,474,000	288,200
	香港ドル	91,383,600	92,532,000	1,148,400
	シンガポールドル	71,819,100	72,513,000	693,900
	合計	8,738,094,466	8,803,352,182	65,221,304

(注)1. 時価の算定方法

(1) 本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

同中間計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

同中間計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 同中間計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物売買相場の仲値をもとに計算しております。
- ・ 同中間計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2) 本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については同中間計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

2. 換算において円未満の端数は切り捨てております。

3. 契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

(1口当たり情報に関する注記)

2019年 6月24日現在		2019年12月24日現在	
1口当たり純資産額	1.7014円	1口当たり純資産額	1.8083円
(1万口当たり純資産額	17,014円)	(1万口当たり純資産額	18,083円)

「東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)」の状況

(1) 貸借対照表

		2019年 6月24日現在	2019年12月24日現在
区 分	注記 番号	金額（円）	金額（円）
資産の部			
流動資産			
預金		3,108,334	9,077,647
コール・ローン		67,700,490	22,944,312
国債証券		479,808,904	344,807,259
特殊債券		92,195,229	96,129,027
社債券		1,308,480,152	1,527,771,589
派生商品評価勘定		5,507,418	15,670,257
未収入金		19,034,031	
未収利息		12,925,333	15,349,562
前払費用		2,425,928	1,277,218
流動資産合計		1,991,185,819	2,033,026,871
資産合計		1,991,185,819	2,033,026,871
負債の部			
流動負債			
派生商品評価勘定		7,857,749	
未払金		422,832	
未払解約金		6,981,175	7,330,917
未払利息		147	44
流動負債合計		15,261,903	7,330,961
負債合計		15,261,903	7,330,961
純資産の部			
元本等			
元本	1	1,892,357,708	1,900,000,375
剰余金			
剰余金又は欠損金（ ）		83,566,208	125,695,535
元本等合計		1,975,923,916	2,025,695,910
純資産合計		1,975,923,916	2,025,695,910
負債純資産合計		1,991,185,819	2,033,026,871

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	自 2019年 6月25日 至 2019年12月24日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券、特殊債券及び社債券 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、又は価格情報会社の提供する価額で評価しております。

2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には、発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	2019年 6月24日現在	2019年12月24日現在
1. 1 本書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額	1,735,357,260円	1,892,357,708円
同期中における追加設定元本額	305,175,253円	241,589,809円
同期中における一部解約元本額	148,174,805円	233,947,142円
同中間期末における元本額	1,892,357,708円	1,900,000,375円
元本の内訳*		
東京海上・世界資産バランスファンド(毎月決算型)	877,010,394円	912,468,557円
東京海上・世界資産バランスファンド(年1回決算型)	1,015,347,314円	987,531,818円
計	1,892,357,708円	1,900,000,375円
2. 1 本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日における当該親投資信託の受益権の総数	1,892,357,708口	1,900,000,375口

(注) *は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

区 分	2019年 6月24日現在	2019年12月24日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	(1)有価証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。	(1)有価証券 同左

	(2)デリバティブ取引 (デリバティブ取引等に関する注記)に記載していません。 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	(2)デリバティブ取引 同左 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額又は計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	同左

(デリバティブ取引等に関する注記)
取引の時価等に関する事項

通貨関連

(2019年6月24日現在)

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建	1,887,893,874		1,890,244,205	2,350,331
	米ドル	742,525,885		737,018,467	5,507,418
	ユーロ	758,579,444		762,409,053	3,829,609
	英ポンド	194,690,257		196,397,150	1,706,893
	スウェーデンクローネ	110,158,681		110,855,626	696,945
	ノルウェークローネ	81,939,607		83,563,909	1,624,302
合計		1,887,893,874		1,890,244,205	2,350,331

(2019年12月24日現在)

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		

	為替予約取引			
市場取引 以外の取引	売建	2,004,040,898	1,988,370,641	15,670,257
	米ドル	873,759,991	873,156,408	603,583
	ユーロ	915,327,787	908,008,367	7,319,420
	英ポンド	214,953,120	207,205,866	7,747,254
	合計	2,004,040,898	1,988,370,641	15,670,257

(注)1.時価の算定方法

(1) 本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

同中間計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

同中間計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 同中間計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物売買相場の仲値をもとに計算しております。
- ・ 同中間計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2) 本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については同中間計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

2.換算において円未満の端数は切り捨てております。

3.契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

(1口当たり情報に関する注記)

2019年 6月24日現在		2019年12月24日現在	
1口当たり純資産額	1.0442円	1口当たり純資産額	1.0662円
(1万口当たり純資産額	10,442円)	(1万口当たり純資産額	10,662円)

「東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)」の状況

(1) 貸借対照表

		2019年 6月24日現在	2019年12月24日現在
区 分	注記 番号	金額(円)	金額(円)
資産の部			
流動資産			
預金		868,243	896,742
コール・ローン		7,940,497	10,533,741
投資証券		416,808,551	414,233,741
派生商品評価勘定		3,097,750	39,130
未収配当金		1,072,727	692,409
流動資産合計		429,787,768	426,395,763
資産合計		429,787,768	426,395,763
負債の部			
流動負債			
派生商品評価勘定		585	3,327,703
未払解約金		1,526,806	1,530,541

未払利息		17	20
流動負債合計		1,527,408	4,858,264
負債合計		1,527,408	4,858,264
純資産の部			
元本等			
元本	1	358,529,949	359,251,772
剰余金			
剰余金又は欠損金()		69,730,411	62,285,727
元本等合計		428,260,360	421,537,499
純資産合計		428,260,360	421,537,499
負債純資産合計		429,787,768	426,395,763

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	自 2019年 6月25日 至 2019年12月24日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所等における最終相場(最終相場のないものについては、それに準ずる価額)、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には、発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	2019年 6月24日現在	2019年12月24日現在
1. 1 本書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額	297,650,982円	358,529,949円
同期中における追加設定元本額	114,969,643円	51,414,493円
同期中における一部解約元本額	54,090,676円	50,692,670円
同中間期末における元本額	358,529,949円	359,251,772円
元本の内訳*		

東京海上・世界資産バランスファンド（毎月決算型）	166,161,081円	172,509,565円
東京海上・世界資産バランスファンド（年1回決算型）	192,368,868円	186,700,829円
年金安定収益追求型マルチアセット ファンド<適格機関投資家限定>	円	41,378円
計	358,529,949円	359,251,772円
2. 1 本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日における当該親投資信託の受益権の総数	358,529,949口	359,251,772口

（注）*は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

区 分	2019年 6月24日現在	2019年12月24日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	(1)有価証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 (2)デリバティブ取引 （デリバティブ取引等に関する注記）に記載しております。 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	(1)有価証券 同左 (2)デリバティブ取引 同左 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額又は計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	同左

（デリバティブ取引等に関する注記）

取引の時価等に関する事項

通貨関連

（2019年6月24日現在）

(単位:円)

区分	種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建	411,921,725		408,824,560	3,097,165
	米ドル	314,422,598		311,902,980	2,519,618
	ユーロ	9,045,175		9,045,760	585
	豪ドル	46,174,910		45,673,560	501,350
	香港ドル	11,998,170		11,936,400	61,770
	シンガポールドル	30,280,872		30,265,860	15,012
合計		411,921,725		408,824,560	3,097,165

(2019年12月24日現在)

(単位:円)

区分	種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建	414,072,277		417,360,850	3,288,573
	米ドル	320,891,285		323,002,120	2,110,835
	ユーロ	18,820,651		18,936,840	116,189
	英ポンド	6,127,500		6,088,370	39,130
	豪ドル	41,068,099		41,845,510	777,411
	シンガポールドル	27,164,742		27,488,010	323,268
合計		414,072,277		417,360,850	3,288,573

(注)1.時価の算定方法

(1) 本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

同中間計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

同中間計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 同中間計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物売買相場の仲値をもとに計算しております。
- ・ 同中間計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2) 本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については同中間計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

2.換算において円未満の端数は切り捨てております。

3.契約額等及び時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

(1口当たり情報に関する注記)

2019年 6月24日現在		2019年12月24日現在	
1口当たり純資産額	1.1945円	1口当たり純資産額	1.1734円
(1万口当たり純資産額	11,945円)	(1万口当たり純資産額	11,734円)

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

2019年12月30日現在

種類	金額
資産総額	1,503,787,781 円
負債総額	246,395 円
純資産総額(-)	1,503,541,386 円
発行済数量	1,411,700,798 口
1単位当たり純資産額(/)	1.0651 円

(ご参考：親投資信託の現況)

TMA高配当・低ボラティリティ外国株マザーファンド(為替ヘッジあり)

2019年12月30日現在

種類	金額
資産総額	8,749,417,327 円
負債総額	134,106,107 円
純資産総額(-)	8,615,311,220 円
発行済数量	4,746,661,436 口
1単位当たり純資産額(/)	1.8150 円

東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド(為替ヘッジあり)

2019年12月30日現在

種類	金額
資産総額	2,030,916,359 円
負債総額	1,648,767 円
純資産総額(-)	2,029,267,592 円
発行済数量	1,901,991,757 口
1単位当たり純資産額(/)	1.0669 円

東京海上・世界REITマザーファンド(為替ヘッジあり)

2019年12月30日現在

種類	金額
資産総額	430,997,488 円
負債総額	4,509,784 円
純資産総額(-)	426,487,704 円
発行済数量	359,628,257 口
1単位当たり純資産額(/)	1.1859 円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

ファンドの受益権は、振替受益権となり、委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発

行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

1. 名義書換
該当事項はありません。
2. 受益者に対する特典
特典はありません。
3. 内国投資信託受益証券の譲渡制限の内容
譲渡制限はありません。
4. 受益権の譲渡
受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。
上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。
上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。
5. 受益権の譲渡の対抗要件
受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。
6. 受益権の再分割
委託会社は、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。
7. 償還金
償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)にお支払いします。
8. 質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて
振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

2019年12月末日現在、資本金の額は20億円です。なお、会社の発行可能株式総数は160,000株であり、38,300株を発行済みです。

委託会社業務執行上重要な事項は、取締役会の決議をもって決定します。取締役の選任は株主総会において、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもってこれを行い、累積投票によらないものとします。取締役の任期は、選任後1年内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。取締役会はその決議をもって、取締役中より代表取締役を選任します。

投資信託の投資運用の意思決定プロセスは以下の通りです。

運用本部で運用計画案、収益分配方針案等の運用の基本方針案を作成します。

運用の基本方針は、運用本部長を委員長とする投資政策委員会で投資環境見通し等をふまえて決定されます。

決定された運用の基本方針に基づき、具体的運用計画を策定し、運用を行います。

売買の執行はトレーディング部が行います。

運用部門とは独立した管理部門にて運用評価、ガイドライン遵守状況のチェックを行い、管理本部長を委員長とし運用管理部を事務局とする運用管理委員会に結果報告します。

運用管理委員会から投資政策委員会へ運用評価、ガイドライン遵守状況がフィードバックされ次の基本方針決定に生かされます。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。

2019年12月末日現在、委託会社が運用を行っている証券投資信託（親投資信託を除きます。）は次の通りです。

	本数	純資産総額（百万円）
追加型公社債投資信託	0	0
追加型株式投資信託	186	3,016,469
単位型公社債投資信託	2	7,103
単位型株式投資信託	5	21,580
合計	193	3,045,153

3【委託会社等の経理状況】

1. 当社の財務諸表は「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。
また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)並びに同規則第38条及び第57条により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。
2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第34期事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。
また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間会計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)の中間財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による中間監査を受けております。

(1)【貸借対照表】

(単位：千円)

	第33期 (2018年3月31日現在)	第34期 (2019年3月31日現在)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	16,828,496	17,817,927
前払費用	150,894	208,412
未収委託者報酬	1,524,731	1,954,575
未収収益	2,530,730	1,951,601
未収入金	1,919	1,809
その他の流動資産	23,613	21,491
流動資産計	21,060,384	21,955,817
固定資産		
有形固定資産	* 1 547,215	* 1 509,917
建物	409,858	379,427
器具備品	136,834	130,490
リース資産	522	-
無形固定資産	34,467	53,138
電話加入権	3,795	3,795
ソフトウェア仮勘定	30,672	49,343
投資その他の資産	2,706,769	2,769,418
投資有価証券	43,545	43,201
関係会社株式	1,673,049	1,673,049
その他の関係会社有価証券	31,200	31,200
長期前払費用	10,541	28,546
敷金	450,632	450,632
その他長期差入保証金	10,865	10,030
繰延税金資産	486,934	532,758
固定資産計	3,288,452	3,332,475
資産合計	24,348,837	25,288,293
負債の部		
流動負債		
リース債務	548	-
未払金	2,563,951	2,534,676
未払手数料	634,789	872,217
その他未払金	1,929,162	1,662,458
未払費用	530,106	455,110
未払消費税等	262,100	73,427
未払法人税等	960,000	698,000
預り金	43,264	54,312
前受収益	3,156	3,353
賞与引当金	282,443	313,291
流動負債計	4,645,570	4,132,173
固定負債		
退職給付引当金	386,552	378,099
固定負債計	386,552	378,099
負債合計	5,032,123	4,510,272
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	400,000	400,000
その他資本剰余金	400,000	400,000
利益剰余金	16,914,136	18,375,924
利益準備金	500,000	500,000
その他利益剰余金	16,414,136	17,875,924
特別償却準備金	38	16

繰越利益剰余金	16,414,098	17,875,907
評価・換算差額等	2,577	2,096
その他有価証券評価差額金	2,577	2,096
純資産合計	19,316,713	20,778,021
負債・純資産合計	24,348,837	25,288,293

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第33期 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	第34期 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	11,741,085	12,725,446
運用受託報酬	11,384,860	9,897,931
投資助言報酬	68,541	69,049
その他営業収益	215,481	328,576
営業収益計	23,409,968	23,021,003
営業費用		
支払手数料	5,463,460	5,892,133
広告宣伝費	176,289	212,070
調査費	6,331,477	5,956,517
調査費	2,359,989	3,009,203
委託調査費	3,971,487	2,947,314
委託計算費	110,708	119,436
営業雑経費	226,401	238,392
通信費	30,555	32,765
印刷費	160,440	167,851
協会費	21,276	20,903
諸会費	6,349	8,374
図書費	7,778	8,498
営業費用計	12,308,336	12,418,551
一般管理費		
給料	3,103,124	3,450,052
役員報酬	132,792	117,075
給料・手当	2,139,811	2,360,494
賞与	830,521	972,483
交際費	16,511	19,897
寄付金	3,384	131
旅費交通費	181,123	200,290
租税公課	142,241	139,043
不動産賃借料	375,691	377,671
役員退職慰労金	6,710	-
退職給付費用	114,711	113,433
賞与引当金繰入	282,443	313,291
固定資産減価償却費	76,622	106,175
法定福利費	499,149	567,366
福利厚生費	8,917	10,913
諸経費	437,854	480,371
一般管理費計	5,248,487	5,778,637
営業利益	5,853,144	4,823,815
営業外収益		
受取利息	472	421
受取配当金	* 1 107,891	* 1 5,041
匿名組合投資利益	* 1 50,146	* 1 59,798
雑益	11,209	16,161
営業外収益計	169,720	81,422
営業外費用		
為替差損	19,974	33,574
雑損	2,653	2,395

営業外費用計	22,628	35,970
経常利益	6,000,236	4,869,267
特別損失		
器具備品除却損	257	0
特別損失計	257	0
税引前当期純利益	5,999,979	4,869,267
法人税、住民税及び事業税	1,806,783	1,551,497
法人税等調整額	19,919	45,612
法人税等合計	1,786,863	1,505,884
当期純利益	4,213,116	3,363,382

(3)【株主資本等変動計算書】

第33期(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金	
		その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		その他利益 剰余金	
					特別償却 準備金	繰越利益 剰余金
当期首残高	2,000,000	400,000	400,000	500,000	79	13,984,954
当期変動額						
剰余金の配当						1,784,014
特別償却準備金の取崩					41	41
当期純利益						4,213,116
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	41	2,429,143
当期末残高	2,000,000	400,000	400,000	500,000	38	16,414,098

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	14,485,034	16,885,034	2,011	2,011	16,887,045
当期変動額					
剰余金の配当	1,784,014	1,784,014			1,784,014
特別償却準備金の取崩	-	-			-
当期純利益	4,213,116	4,213,116			4,213,116
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			565	565	565
当期変動額合計	2,429,102	2,429,102	565	565	2,429,667
当期末残高	16,914,136	19,314,136	2,577	2,577	19,316,713

第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金	
		その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		その他利益 剰余金	
					特別償却 準備金	繰越利益 剰余金
当期首残高	2,000,000	400,000	400,000	500,000	38	16,414,098
当期変動額						
剰余金の配当						1,901,595
特別償却準備金の取崩					21	21
当期純利益						3,363,382
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	-	21	1,461,809
当期末残高	2,000,000	400,000	400,000	500,000	16	17,875,907

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	16,914,136	19,314,136	2,577	2,577	19,316,713
当期変動額					
剰余金の配当	1,901,595	1,901,595			1,901,595
特別償却準備金の取崩	-	-			-
当期純利益	3,363,382	3,363,382			3,363,382
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			480	480	480
当期変動額合計	1,461,787	1,461,787	480	480	1,461,307
当期末残高	18,375,924	20,775,924	2,096	2,096	20,778,021

注記事項

重要な会計方針

第34期

自 2018年4月1日

至 2019年3月31日

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式並びにその他の関係会社有価証券

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価を把握することが極めて困難と認められるもの

移動平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。また、取得価額が10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、一括償却資産として3年間で均等償却する方法を採用しております。

(2) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リースに係る有形固定資産中のリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額の当期負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

4. 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

第34期

自 2018年4月1日

至 2019年3月31日

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

第34期

自 2018年4月1日

至 2019年3月31日

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」291,045千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」486,934千円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

第33期 2018年3月31日現在	第34期 2019年3月31日現在
* 1. 有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。	* 1. 有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。
建物 51,080千円	建物 81,793千円
器具備品 424,930千円	器具備品 498,485千円
リース資産 3,395千円	リース資産 3,918千円

(損益計算書関係)

第33期 自 2017年4月1日 至 2018年3月31日	第34期 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
* 1. 関係会社との主な取引高は次のとおりであります。	* 1. 関係会社との主な取引高は次のとおりであります。
関係会社からの受取配当金 104,224千円	関係会社からの受取配当金 4,800千円
関係会社からの匿名組合契約に基づく利益の分配 50,146千円	関係会社からの匿名組合契約に基づく利益の分配 59,798千円

(株主資本等変動計算書関係)

第33期(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

(単位:株)

株式の種類	2017年4月1日 現在	増加	減少	2018年3月31日 現在
普通株式	38,300	-	-	38,300

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2017年6月30日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	1,784,014千円
(ロ) 1株当たり配当額	46,580円
(ハ) 基準日	2017年3月31日
(ニ) 効力発生日	2017年6月30日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2018年6月29日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	1,901,595千円
(ロ) 配当の原資	繰越利益剰余金
(ハ) 1株当たり配当額	49,650円
(ニ) 基準日	2018年3月31日
(ホ) 効力発生日	2018年6月29日

第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

(単位:株)

株式の種類	2018年4月1日 現在	増加	減少	2019年3月31日 現在
普通株式	38,300	-	-	38,300

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2018年6月29日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	1,901,595千円
(ロ) 1株当たり配当額	49,650円
(ハ) 基準日	2018年3月31日
(ニ) 効力発生日	2018年6月29日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの
2019年6月28日の定時株主総会において、次のとおり配当を提案する予定であります。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	2,017,644千円
(ロ) 配当の原資	繰越利益剰余金
(ハ) 1株当たり配当額	52,680円
(ニ) 基準日	2019年3月31日
(ホ) 効力発生日	2019年6月28日

(リース取引関係)

第33期(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

1. リース資産の内容

事務機器の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

2. リース資産の減価償却の方法

「重要な会計方針」の「2. 固定資産の減価償却の方法」に記載の通りであります。

第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

1. リース資産の内容

事務機器の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しておりましたが、当事業年度においてリース契約が満了しております。

2. リース資産の減価償却の方法

「重要な会計方針」の「2. 固定資産の減価償却の方法」に記載の通りであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

第33期		第34期	
自	2017年4月1日	自	2018年4月1日
至	2018年3月31日	至	2019年3月31日

<p>(1) 金融商品に対する取組方針 当社の資本は本来の事業目的のために使用することを基本とし、資産の運用に際しては、資産運用リスクを極力最小限に留めることを基本方針としております。</p>	<p>(1) 金融商品に対する取組方針 同左</p>
<p>(2) 金融商品の内容及びそのリスク 営業債権である未収収益は顧客の信用リスクに晒されており、未収委託者報酬は市場リスクに晒されております。投資有価証券は、主にファンドの自己設定に関連する投資信託であり、基準価額の変動リスクに晒されております。</p> <p>営業債務である未払金は、ほとんど1年以内の支払期日であり、流動性リスクに晒されております。</p>	<p>(2) 金融商品の内容及びそのリスク 同左</p>
<p>(3) 金融商品に係るリスク管理体制</p> <p>信用リスク 未収収益については、管理部門において取引先ごとに期日及び残高を把握することで、回収懸念の早期把握や軽減を図っております。</p> <p>市場リスク 未収委託者報酬には、運用資産の悪化から回収できず当社が損失を被るリスクが存在しますが、過去の回収実績からリスクは僅少であると判断しております。</p> <p>投資有価証券については、管理部門において定期的に時価を把握する体制としております。</p> <p>流動性リスク 当社は、日々資金残高管理を行っており流動性リスクを管理しております。</p>	<p>(3) 金融商品に係るリスク管理体制</p> <p>信用リスク 同左</p> <p>市場リスク 同左</p> <p>流動性リスク 同左</p>

2. 金融商品の時価等に関する事項

第33期(2018年3月31日現在)における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含めておりません(注2)参照)。

(単位:千円)

	貸借対照表計上額(*)	時価(*)	差額
(1)現金・預金	16,828,496	16,828,496	-
(2)未収委託者報酬	1,524,731	1,524,731	-
(3)未収収益	2,530,730	2,530,730	-
(4)未収入金	1,919	1,919	-
(5)投資有価証券 其他有価証券	43,545	43,545	-
(6)預り金	(43,264)	(43,264)	-
(7)未払金	(2,563,951)	(2,563,951)	-
(8)未払費用	(530,106)	(530,106)	-
(9)未払消費税等	(262,100)	(262,100)	-
(10)未払法人税等	(960,000)	(960,000)	-

(*)負債に計上されているものについては、()で示しております。

第34期(2019年3月31日現在)における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含めておりません(注2)参照)。

(単位:千円)

	貸借対照表計上額(＊)	時価(＊)	差額
(1)現金・預金	17,817,927	17,817,927	-
(2)未収委託者報酬	1,954,575	1,954,575	-
(3)未収収益	1,951,601	1,951,601	-
(4)未収入金	1,809	1,809	-
(5)投資有価証券 其他有価証券	43,201	43,201	-
(6)預り金	(54,312)	(54,312)	-
(7)未払金	(2,534,676)	(2,534,676)	-
(8)未払費用	(455,110)	(455,110)	-
(9)未払消費税等	(73,427)	(73,427)	-
(10)未払法人税等	(698,000)	(698,000)	-

(＊)負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

第33期 2018年3月31日現在	第34期 2019年3月31日現在
(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収収益、(4) 未収入金、(6) 預り金、(7) 未払金、(8) 未払費用、(9) 未払消費税等及び(10) 未払法人税等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。	(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収収益、(4) 未収入金、(6) 預り金、(7) 未払金、(8) 未払費用、(9) 未払消費税等及び(10) 未払法人税等 同左
(5) 投資有価証券 時価の算定方法につきましては「重要な会計方針」の「1. 有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。	(5) 投資有価証券 同左

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

第33期 2018年3月31日現在		第34期 2019年3月31日現在	
以下については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。		以下については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。	
(単位：千円)		(単位：千円)	
	貸借対照表計上額		貸借対照表計上額
子会社株式	1,640,302	子会社株式	1,640,302
関連会社株式	32,747	関連会社株式	32,747
その他の関係会社 有価証券	31,200	その他の関係会社 有価証券	31,200
敷金	450,632	敷金	450,632
その他長期差入保証金	10,865	その他長期差入保証金	10,030

(注3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

第33期 2018年3月31日現在	第34期 2019年3月31日現在
該当事項はありません。	同左

(注4) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

第33期(2018年3月31日現在)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	16,827,976	-	-	-
未収委託者報酬	1,524,731	-	-	-
未収収益	2,530,730	-	-	-
未収入金	1,919	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの	-	19,743	5,000	-
合計	20,885,358	19,743	5,000	-

第34期(2019年3月31日現在)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	17,817,465	-	-	-
未収委託者報酬	1,954,575	-	-	-
未収収益	1,951,601	-	-	-
未収入金	1,809	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの	8,308	13,426	5,810	-
合計	21,733,759	13,426	5,810	-

(有価証券関係)

第33期 2018年3月31日現在	第34期 2019年3月31日現在
<p>1. 子会社株式及び関連会社株式並びにその他の関係会社有価証券</p> <p>子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式1,640,302千円、関連会社株式32,747千円)並びにその他の関係会社有価証券(貸借対照表計上額 31,200千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。</p> <p>2. その他有価証券</p> <p>(単位:千円)</p>	<p>1. 子会社株式及び関連会社株式並びにその他の関係会社有価証券</p> <p>子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式1,640,302千円、関連会社株式32,747千円)並びにその他の関係会社有価証券(貸借対照表計上額 31,200千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。</p> <p>2. その他有価証券</p> <p>(単位:千円)</p>

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額	区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 証券投資信託	27,151	21,652	5,498	貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 証券投資信託	27,344	22,052	5,292
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 証券投資信託	16,394	18,178	1,783	貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 証券投資信託	15,856	18,126	2,269
合計	43,545	39,831	3,714	合計	43,201	40,179	3,022
3．当事業年度中に売却したその他有価証券 該当事項はありません。				3．当事業年度中に売却したその他有価証券 同左			

(退職給付関係)

1．採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に備えるため、非積立型の確定給付制度及び確定拠出年金制度を採用しております。

退職一時金制度（非積立型制度であります。）では、当社従業員を制度対象として、給与と勤続年数に基づき算出した一時金を支給しております。受入出向者については退職給付負担金を支払っており、損益計算書上の退職給付費用には当該金額が含まれております。貸借対照表上は出向期間3年以下の出向者に係る金額が退職給付引当金に、出向期間3年超の出向者に係る金額がその他未払金にそれぞれ含まれております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2．確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	第33期		第34期	
	自	2017年4月1日	自	2018年4月1日
	至	2018年3月31日	至	2019年3月31日
退職給付引当金の期首残高		393,213千円		386,552千円
退職給付費用		46,223千円		38,082千円
退職給付の支払額		43,667千円		37,318千円
確定拠出年金制度への移管額		9,217千円		9,217千円
退職給付引当金の期末残高		386,552千円		378,099千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	第33期		第34期	
	2018年3月31日現在		2019年3月31日現在	
積立型制度の退職給付債務		-		-
年金資産		-		-
		-		-
非積立型制度の退職給付債務		386,552千円		378,099千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額		386,552千円		378,099千円
退職給付引当金		386,552千円		378,099千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額		386,552千円		378,099千円

(3) 退職給付費用

	第33期		第34期	
	自	2017年4月1日	自	2018年4月1日
	至	2018年3月31日	至	2019年3月31日
簡便法で計算した退職給付費用		37,006千円		28,865千円

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、第33期(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) 54,764千円、第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) 62,736千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第33期	第34期
	(2018年3月31日現在)	(2019年3月31日現在)
繰延税金資産		
退職給付引当金	118,362千円	115,773千円
未払金	4,251千円	3,921千円
賞与引当金	86,484千円	95,929千円
未払法定福利費	10,538千円	10,904千円
未払事業所税	3,288千円	3,587千円
未払事業税	50,364千円	40,339千円
未払調査費	44,622千円	83,845千円
減価償却超過額	78,443千円	98,061千円
繰延資産超過額	237千円	1,733千円
未払確定拠出年金	1,519千円	1,664千円
未収実績連動報酬	-	3,881千円

過大確定拠出年金掛金	-	19千円
未払費用	89,977千円	74,029千円
繰延税金資産小計	488,088千円	533,691千円
評価性引当額	-	-
繰延税金資産合計	488,088千円	533,691千円
繰延税金負債		
特別償却準備金	16千円	7千円
その他有価証券評価差額金	1,137千円	925千円
繰延税金負債合計	1,154千円	932千円
繰延税金資産の純額	486,934千円	532,758千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

第33期 (2018年3月31日現在)	第34期 (2019年3月31日現在)
法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	同左

(セグメント情報等)

第33期 自 2017年4月1日 至 2018年3月31日	第34期 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
<p>[セグメント情報]</p> <p>当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として運用(投資運用業)を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っております。</p> <p>当社は、投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。</p>	<p>[セグメント情報]</p> <p>同左</p>

[関連情報]	[関連情報]
<p>1. 製品及びサービスごとの情報 単一のサービス区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。</p> <p>2. 地域ごとの情報 (1) 営業収益 本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。 (2) 有形固定資産 本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。</p> <p>3. 主要な顧客ごとの情報 (1) 投資信託の名称 東京海上・円資産バランスファンド（毎月決算型） (2) 委託者報酬 2,915,606千円 (3) 関連するセグメント名 投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメント</p>	<p>1. 製品及びサービスごとの情報 同左</p> <p>2. 地域ごとの情報 (1) 営業収益 同左 (2) 有形固定資産 同左</p> <p>3. 主要な顧客ごとの情報 (1) 投資信託の名称 東京海上・円資産バランスファンド（毎月決算型） (2) 委託者報酬 3,641,416千円 (3) 関連するセグメント名 投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメント</p>

(関連当事者情報)

第33期（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等
重要な取引はありません。(2) 財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等
重要な取引はありません。

(3) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容 又は 職業	議決権の 所有 割合	関連当 事者との 関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の 親会社 をもつ 会社	東京海上日動火災 保険株式会社	東京都 千代田区	101,994,694 千円	損害保険業	なし	運用の 一任 役員 の 兼任	運用受 託報酬 の受取	1,518,481	未収収益	386,279
同一の 親会社 をもつ 会社	Delphi Capital Management, Inc.	米国・ ニューヨーク	USD 1千	資産運用業	なし	運用の 再委託	委託 調査費 の支払	936,716	未払金	288,919

(注) * 取引価格については、市場実勢等を勘案し、交渉の上決定しております。

* 取引金額には、消費税等は含まれておりません。

(4) 財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等
重要な取引はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する情報

(1) 親会社情報

東京海上ホールディングス株式会社（東京証券取引所に上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

重要な関連会社はありません。

第34期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等
重要な取引はありません。(2) 財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等
重要な取引はありません。(3) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等
重要な取引はありません。(4) 財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等
重要な取引はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する情報

(1) 親会社情報

東京海上ホールディングス株式会社（東京証券取引所に上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報
重要な関連会社はありません。

(1 株当たり情報)

第33期 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	
1 株当たり純資産額	504,352円83銭
1 株当たり当期純利益金額	110,003円02銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	
(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎	
貸借対照表の純資産の部の合計額	19,316,713千円
純資産の部の合計額から控除する金額	-
普通株式に係る当期末の純資産額	19,316,713千円
1株当たり純資産額の算定に用いられた当期末の普通株式の数	38,300株
1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎	
損益計算書上の当期純利益金額	4,213,116千円
普通株主に帰属しない金額	-
普通株式に係る当期純利益金額	4,213,116千円
普通株式の期中平均株式数	38,300株

第34期 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
1 株当たり純資産額	542,507円07銭
1 株当たり当期純利益金額	87,816円78銭

なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎	
貸借対照表の純資産の部の合計額	20,778,021千円
純資産の部の合計額から控除する金額	-
普通株式に係る当期末の純資産額	20,778,021千円
1株当たり純資産額の算定に用いられた当期末の普通株式の数	38,300株
1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎	
損益計算書上の当期純利益金額	3,363,382千円
普通株主に帰属しない金額	-
普通株式に係る当期純利益金額	3,363,382千円
普通株式の期中平均株式数	38,300株

中間財務諸表
中間貸借対照表

(単位：千円)

当中間会計期間 (2019年9月30日現在)		
資産の部		
流動資産		
現金・預金		16,391,035
前払費用		169,413
未収委託者報酬		2,264,946
未収収益		2,409,775
未収入金		22,553
その他の流動資産		23,480
流動資産計		21,281,205
固定資産		
有形固定資産	* 1	572,176
建物		404,959
器具備品		167,216
無形固定資産		17,518
電話加入権		3,795
ソフトウェア仮勘定		13,722
投資その他の資産		3,141,678
投資有価証券		77,633
関係会社株式		1,673,049
その他の関係会社有価証券		31,200
長期前払費用		23,029
敷金		450,632
その他長期差入保証金		10,030
繰延税金資産		876,103
固定資産計		3,731,372
資産合計		25,012,578
負債の部		
流動負債		
未払金		2,027,310
未払手数料		1,029,360
その他未払金		997,949
未払費用		354,421
未払消費税等	* 2	129,230
未払法人税等		1,043,000
預り金		49,969
前受収益		14,362
賞与引当金		481,550
その他の流動負債		12
流動負債計		4,099,857
固定負債		
退職給付引当金		732,354
固定負債計		732,354
負債合計		4,832,211
純資産の部		
株主資本		
株主資本		20,178,621
資本金		2,000,000
資本剰余金		400,000

その他資本剰余金	400,000
利益剰余金	17,778,621
利益準備金	500,000
その他利益剰余金	17,278,621
特別償却準備金	5
繰越利益剰余金	17,278,615
評価・換算差額等	1,745
その他有価証券評価差額金	1,745
純資産合計	20,180,366
負債・純資産合計	25,012,578

中間損益計算書

(単位：千円)

当中間会計期間	
(自 2019年4月1日	
至 2019年9月30日)	
営業収益	
委託者報酬	7,524,393
運用受託報酬	4,252,315
投資助言報酬	30,928
その他営業収益	186,820
営業収益計	11,994,458
営業費用	
支払手数料	3,540,165
広告宣伝費	141,048
調査費	2,738,418
調査費	1,339,056
委託調査費	1,399,361
委託計算費	62,315
営業雑経費	144,140
通信費	18,197
印刷費	98,645
協会費	13,896
諸会費	6,343
図書費	7,057
営業費用計	6,626,088
一般管理費	
給料	1,473,323
役員報酬	56,880
給料・手当	1,261,518
賞与	154,925
交際費	9,299
寄付金	2,231
旅費交通費	94,102
租税公課	75,821
不動産賃借料	187,847
退職給付費用	393,207
賞与引当金繰入	481,550
固定資産減価償却費	* 1 44,275
法定福利費	279,063
福利厚生費	9,776
諸経費	254,123
一般管理費計	3,304,621

営業利益	2,063,748
営業外収益	
受取利息	61
受取配当金	86
雑益	6,429
営業外収益計	6,577
営業外費用	
為替差損	16,795
雑損	629
営業外費用計	17,424
経常利益	2,052,900
特別損失	
器具備品除却損	0
特別損失計	0
税引前中間純利益	2,052,900
法人税、住民税及び事業税	975,749
法人税等調整額	343,190
法人税等合計	632,559
中間純利益	1,420,341

中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金	
		その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		その他利益 剰余金	
					特別償却 準備金	繰越利益 剰余金
当期首残高	2,000,000	400,000	400,000	500,000	16	17,875,907
当中間期変動額						
剰余金の配当						2,017,644
特別償却準備金の取崩					10	10
中間純利益						1,420,341
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)						
当中間期変動額合計	-	-	-	-	10	597,292
当中間期末残高	2,000,000	400,000	400,000	500,000	5	17,278,615

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	18,375,924	20,775,924	2,096	2,096	20,778,021
当中間期変動額					
剰余金の配当	2,017,644	2,017,644			2,017,644
特別償却準備金の取崩	-	-			-
中間純利益	1,420,341	1,420,341			1,420,341

株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)			351	351	351
当中間期変動額合計	597,302	597,302	351	351	597,654
当中間期末残高	17,778,621	20,178,621	1,745	1,745	20,180,366

注記事項

重要な会計方針

	当中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1. 資産の評価基準及び 評価方法	<p>有価証券</p> <p>(1) 子会社株式及び関連会社株式並びにその他の関係会社有価証券 移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 中間会計期間末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価を把握することが極めて困難と認められるもの 移動平均法による原価法</p>
2. 固定資産の減価償却 の方法	<p>有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。また、取得価額が10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、一括償却資産として3年間で均等償却する方法を採用しております。</p>
3. 引当金の計上基準	<p>(1) 賞与引当金 従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。</p> <p>(2) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。</p> <p>退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。</p> <p>数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法</p>

	<p>数理計算上の差異は、各会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の際会計年度から費用処理しております。</p> <p>過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。</p>
4. 消費税等の会計処理方法	消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

<p>当中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)</p>
<p>(退職給付債務の計算方法の変更)</p> <p>当社は、退職給付債務の計算方法について、従来まで期末自己都合要支給額を退職給付債務とする簡便法によっておりましたが、従業員数の増加に伴い当事業年度より原則的な方法に変更しております。この変更に伴い、当中間会計期間末における退職給付引当金が319,413千円増加し、同額を退職給付費用として一般管理費に計上しております。</p>

(中間貸借対照表関係)

	<p>当中間会計期間 (2019年9月30日現在)</p>
1 有形固定資産の減価償却累計額	<p>建物 97,396千円 器具備品 498,508千円</p>
2 消費税等の取扱い	仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、未払消費税等として表示しております。

(中間損益計算書関係)

	<p>当中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)</p>
1 減価償却実施額	有形固定資産 44,275千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

	<p>当中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)</p>			
1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項				
株式の種類	当事業年度期首 (株)	当中間会計期間 増加 (株)	当中間会計期間 減少 (株)	当中間会計期間末 (株)
普通株式	38,300	-	-	38,300
2. 配当に関する事項				

配当金支払額

2019年6月28日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

- (イ) 配当金の総額・・・・・・・・・・2,017,644千円
- (ロ) 1株当たり配当額・・・・・・・・・・52,680円
- (ハ) 基準日・・・・・・・・・・2019年3月31日
- (ニ) 効力発生日・・・・・・・・・・2019年6月28日

(金融商品関係)

当中間会計期間(2019年9月30日現在)

金融商品の時価等に関する事項

2019年9月30日現在における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含まれておりません(注2)参照)。

(単位:千円)

	中間貸借対照表計上額(※)	時価(※)	差額
(1)現金・預金	16,391,035	16,391,035	-
(2)未収委託者報酬	2,264,946	2,264,946	-
(3)未収収益	2,409,775	2,409,775	-
(4)未収入金	22,553	22,553	-
(5)投資有価証券			
その他有価証券	77,633	77,633	-
(6)預り金	(49,969)	(49,969)	-
(7)未払金	(2,027,310)	(2,027,310)	-
(8)未払費用	(354,421)	(354,421)	-
(9)未払消費税等	(129,230)	(129,230)	-
(10)未払法人税等	(1,043,000)	(1,043,000)	-

(※)負債で計上されているものについては、()で示しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

- (1)現金・預金、(2)未収委託者報酬、(3)未収収益、(4)未収入金、(6)預り金、(7)未払金、(8)未払費用、(9)未払消費税等並びに(10)未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5)投資有価証券

時価の算定方法につきましては「重要な会計方針」の「1.資産の評価基準及び評価方法」に記載しております。

(注2)子会社株式(中間貸借対照表計上額 1,640,302千円)及び関連会社株式(中間貸借対照表計上額 32,747千円)及びその他の関係会社有価証券(中間貸借対照表計上額 31,200千円)及び敷金(中間貸借対照表計上額 450,632千円)並びにその他長期差入保証金(中間貸借対照表計上額 10,030千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

(有価証券関係)

当中間会計期間(2019年9月30日現在)

1.子会社株式及び関連会社株式並びにその他の関係会社有価証券

子会社株式及び関連会社株式(中間貸借対照表計上額 子会社株式1,640,302千円、関連会社株式32,747千円)並びにその他の関係会社有価証券(中間貸借対照表計上額 31,200千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2.その他有価証券

	種類	中間貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	証券投資信託	41,234	35,140	6,094

中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	証券投資信託	36,399	39,977	3,578
合計		77,633	75,118	2,515

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

当中間会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として運用(投資運用業)を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っております。

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

[関連情報]

当中間会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一のサービス区分の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

投資信託の名称	委託者報酬 (単位:千円)	関連するセグメント名
東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)	2,440,965	投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメント

(1株当たり情報)

当中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	
1株当たり純資産額	526,902円52銭
1株当たり中間純利益金額	37,084円62銭
なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	
(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎	
中間貸借対照表の純資産の部の合計額	20,180,366千円
純資産の部の合計額から控除する金額	-
普通株式に係る中間会計期間末の純資産額	20,180,366千円
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間会計期間末の普通株式の数	38,300株
1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎	
中間損益計算書上の中間純利益金額	1,420,341千円
普通株主に帰属しない金額	-
普通株式に係る中間純利益金額	1,420,341千円
普通株式の期中平均株式数	38,300株

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

通常の利用の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。)又は子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引又は金融デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

(1)定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

(2)訴訟事件その他の重要事項

提出日現在、訴訟事件その他委託会社等に重要な影響を及ぼした事実、及び重要な影響を与えることが予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

- ・ 名称 三菱UFJ信託銀行株式会社
(再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
- ・ 資本金の額 324,279百万円(2019年9月末日現在)
- ・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。

<参考情報：再信託受託会社の概要>

- ・ 名称 日本マスタートラスト信託銀行株式会社
- ・ 資本金の額 10,000百万円(2019年9月末日現在)
- ・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名称	資本金の額()	事業の内容
株式会社SBI証券	48,323百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
松井証券株式会社	11,945百万円	
楽天証券株式会社	7,495百万円(注)	
株式会社愛知銀行	18,000百万円	銀行法に基づき銀行業を営んでいます。
株式会社静岡銀行	90,845百万円	
株式会社栃木銀行	27,408百万円	
株式会社百十四銀行	37,322百万円	
株式会社福岡中央銀行	2,500百万円	
株式会社山形銀行	12,008百万円	
三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

() 2019年9月末日現在。

(注) 2019年3月末日現在。

(3) 投資顧問会社

- ・ 名称 ウェスタン・アセット・マネジメント株式会社
(再委託先)
ウェスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシー
ウェスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッド
- ・ 資本金の額 1,000百万円(2019年9月末日現在)
- ・ 事業の内容 投資運用業務を営んでいます。

<参考情報：再委託先の概要>

名称	資本金の額	事業の内容
ウェスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシー	非公開	投資運用業務を営んでいます。
ウェスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッド	非公開	

2【関係業務の概要】

受託会社は、信託財産の保管・管理等を行います。また、当ファンドにかかる信託事務の一部につき日本マスタートラスト信託銀行株式会社に委託することがあります。

販売会社は、募集・販売の取扱い、一部解約事務および収益分配金・解約金・償還金の支払い等を行います。

ウエスタン・アセット・マネジメント株式会社は、委託会社から「東京海上・外貨建て投資適格債券マザーファンド（為替ヘッジあり）」の運用の指図に関する権限の委託を受け、運用の指図を行います。また、同社は、運用の指図権限の一部をウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・エルエルシーおよびウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッドに再委託します。

3【資本関係】

資本関係はありません。

第3【その他】

1. 目論見書の表紙にロゴ・マーク、図案を使用し、委託会社の名称、ファンドの基本的性格等を記載することがあります。
2. 目論見書の表紙に委託会社の金融商品取引業者登録番号および目論見書の使用を開始する日を記載する場合があります。
3. 請求目論見書に当ファンドの約款を添付します。
4. 目論見書の別称として「投資信託説明書（目論見書）」、「投資信託説明書（交付目論見書）」または「投資信託説明書（請求目論見書）」という名称を使用することがあります。
5. 目論見書は電子媒体として使用されたり、インターネット等に掲載されることがあります。

独立監査人の監査報告書

2019年6月3日

東京海上アセットマネジメント株式会社

取締役会御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 荒川 進
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 久保 直毅
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている東京海上アセットマネジメント株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第34期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京海上アセットマネジメント株式会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年8月7日

東京海上アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwC あらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 荒川 進
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 久保 直毅
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている東京海上・世界資産バランスファンド（年1回決算型）の2018年6月26日から2019年6月24日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京海上・世界資産バランスファンド（年1回決算型）の2019年6月24日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

東京海上アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2019年12月2日

東京海上アセットマネジメント株式会社

取締役会御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 奈良昌彦
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 久保直毅
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている東京海上アセットマネジメント株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第35期事業年度の中間会計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、東京海上アセットマネジメント株式会社の2019年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2020年2月5日

東京海上アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 久保 直毅
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている東京海上・世界資産バランスファンド（年1回決算型）の2019年6月25日から2019年12月24日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、東京海上・世界資産バランスファンド（年1回決算型）の2019年12月24日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2019年6月25日から2019年12月24日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

東京海上アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注） 1．上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。